

i. Hongo

部 報

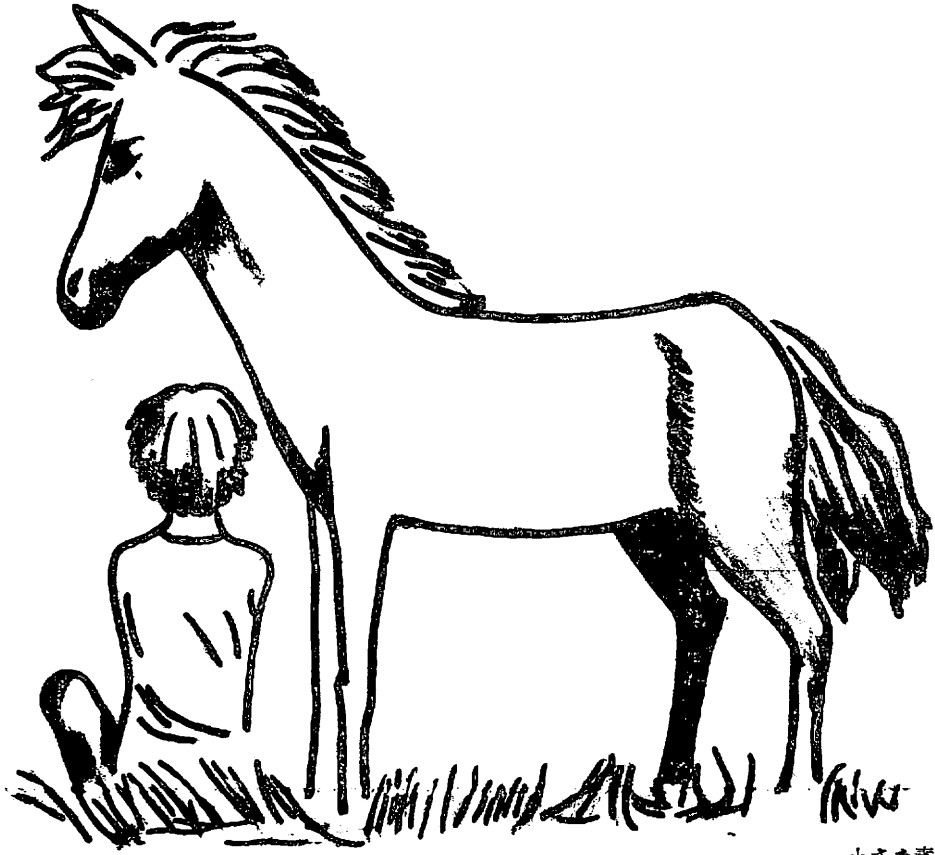


北海道大学馬術部

昭和45年度

No. 16





—小さな青い馬—

春

真白き雪は見あたらねど
吹く風未だ肌に冷たく
吹き上げる砂けむりの中
我もくもくと駒を進める

夏

全ての生命のいぶきに
人は感嘆の声を発し
駒の成長とその充実に
我は喜び野望をいだく

秋

のびきったポプラの梢は
蕭々たる風と戯れそして終る
大自然に孤独をかみしめつつ
栄光の中に我が駒あらむ

冬

肌に刺す厳寒 そして吹雪
自然の猛威に人は苦しむ
されど秘めたる心の思いに
我馬と共にひたすら歩く

北大馬術部讃歌

作詩 三浦 清一郎
作曲 滝沢 南海雄

はるきたれば だいちひか ーる
しろがねのえんざん ゆめほうほう たり
たからかに いま ぞいななけ われ
らしゅん めの ほまーれ あり
ほまーれあり ほく だい ほく だい お
お わがほこう われらしゅん めの
ほまーれ あり

北大馬術部讃歌

一、

春来たれば、大地光る
銀の遠山、夢茫々たり
高らかに 今ぞ嘶け！
われら駿馬のほまれあり

二、

時来たれば 旗をかざせ
青雲の旅路に 意気軒昂たり
高らかに 今ぞ嘶け！
われら駿馬のほまれあり

三、

雲流れて 旅路遙か
青春の孤杖 泥濘はばめど
凜然と 進みて行かむ
駿馬のほまれあるかぎり
北大！ 北大！ おゝ我が母校
われら駿馬のほまれあり

目 次

卷 頭 言		部 長	
決 意		半 沢 道 郎	3
高井先輩を悼む		梶 村 哲 世	5
戦績及び行事報告		岡 田 光 夫	6
会計報告		横 山 豊 昭	7
マネージャー報告		大 見 太 一	10
各馬調教報告		大 見 太 一	11
北 武 号		主 務	
北 凜 号		今 井 敏 郎	13
北 凜 号		松 井 亮	17
北 凜 号		田 崎 拓 昭	18
北 晨 号		横 山 豊 昭	19
北 秀 号		大 見 太 一	20
新馬紹介			
雪 嶺 号		枡 井 明	22
千里馬号		梶 村 哲 世	23
北 勇 号		梶 村 哲 世	23
北力号離厩の御報告		O・B	24
北雄号離厩について		春 田 恭 彦	25
卒業プロフィール		梶 村 哲 世	26

デコに乗って	五年目	堤	秀世	27
先輩寄稿				
馬術部以前	第四代部長	太泰	康光	30
これからの乗馬に望みたいもの	昭和六年卒	間	克一	31
同好会眼りを醒ますの覚え書	同好会幹事			33
部員プロフィール				34
迷作展				
このごろ思うよしなしごと	三年目	近森	憲助	39
縦走路	三年目	小島	京助	41
品川まで	一年目	鈴木	秀二郎	44
動物小話		鳥賀	好太	47

巻 頭 言

部 長 半 沢 道 郎

札幌市が近年急激に膨張し、人口も百万を超えることになり、市内の街路を悠々乗馬で歩くことが益々困難となって来た。例年初乗りには札幌神社に参拝したのであったが、今年は無理をしないで雪の中を馬場で初練習をした。三日には札幌競馬場の馬場で小さい競技会があり、恵まれた新年を迎えた。

一月の末に雪まつりが開かれたが、丁度その時に中央競技会の好意によって馬事公苑から千葉幹雄兄が来札され、北大の馬場に早朝から来て頂いて、長時間の熱心な指導を受け、更に競馬場での講習会が催され部員、O・B多数が参加して誠に有意義な機会に恵まれた。切角の久し振りの来札にもかかわらず、千葉兄には雪まつりや札幌の街をゆっくり見て頂く時間も取られずに引張り廻してしまつて、誠に申し訳なく先輩の有難さを部員諸君と共に心から感激した次第で、改めて千葉先輩に謝意を表します。

昭和十三年畜産出の高井久芳兄が病気で亡くなられ、在札のOBがまた一人減つてしまつたことは本当に残念で、病気で馬には乗れないがと云われ乍ら、馬術競技会には屢々出て見物を楽しんでいた兄の姿が浮んで哀惜の情に堪えません。ご冥福を祈ります。

昭和四十二年度の部報に馬場と厩舎の移転問題に触れ、多分四十三年中に総合グラウンドの一角に移ることになるであろう述べて

から既に四年の歳月が経って、最初の予定地にはトレーニングセンターが建ち、斬く見送りになっていましたが、現在の馬場のところには工学部の原子力関係の建物が建てられる予定で、いよいよ予算がつき、五月頃から工事にかかることになるらしく、またグリーンベルトになる予定であった、第一農場の事務所のある処から現在の厩舎の近くまで新しく理学部の建物が建てられることに変更されたようで、其処にも何時まで居られるか解らない状態になりました。しかし幸なことに本部の施設部の方々に、経理部の方々の絶大なご好意とご努力によって、既に予定されていた旧第二農場の東南の一角で以前は牝牛のバドックであった場所現在馬場より少し広い馬場を造って頂くことになり、予算がつき次第なるべく早く工事に取りかかって下さるとのことです、厩舎の方も重要文化財に指定された旧種牛舎は学生に責任を持たせることもできないので、古い厩舎を移転するという事で、獣医学部の東に残っている旧第二農場の敷地内に、部室の付いた十頭の馬房のある建物を造るよう予算を要求され、早ければ五月頃から工事に着手されることになるかも知れないという事です。

新しい馬場の工事が遅れ、工学部の工事が早くなつた場合には、ある期間練習する馬場が無い時があるかも知れませんが、学内の

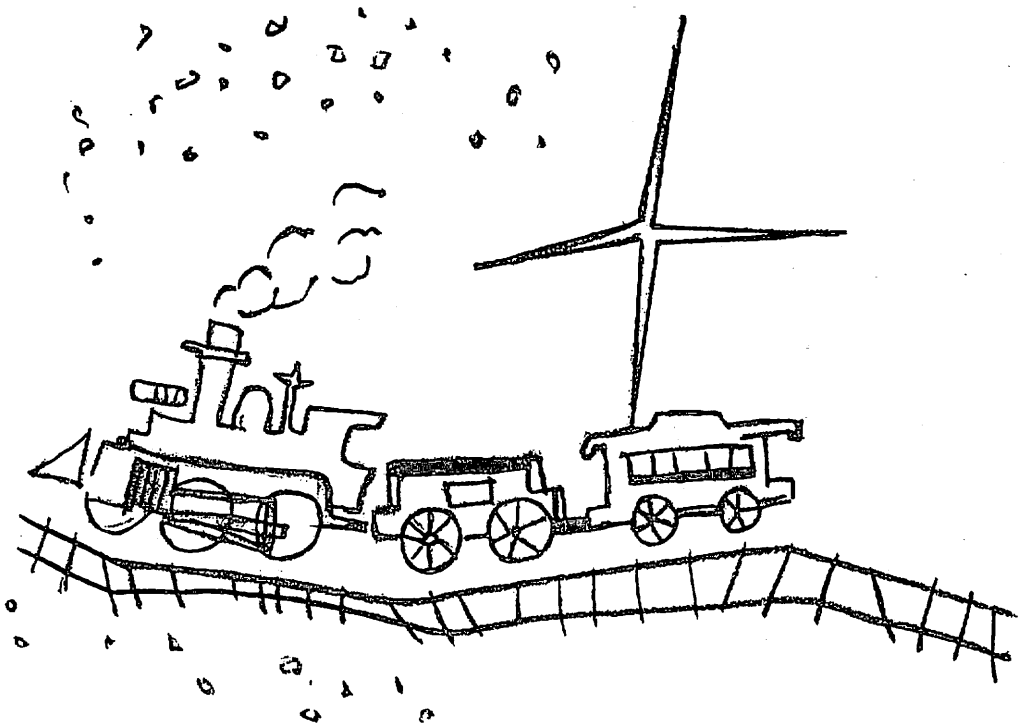
適当な空地に少しく手を入れて練習ができるようにして頂くことについても諒承を得ていますし、最悪の場合は短期間学外の適当なところを借用することも考えています。

いづれにしてもこの夏までには待望の新しい馬場と厩舎が造られて、気分を新しくして活動ができるようになると思われれます。

移転に関連していろいろな問題が沢山出て来ると考えられますので、部員諸君の益々の努力と協力をお願いすると共に、先輩の諸兄や関係の方々の倍旧のご援助を仰ぐ次第であります。

二月の末に四名の卒業生を送り聊か寂寥の感がありますが、四月に入ってから新入部員に期待をかけています。部員の移動も多いが馬の方も昨年から今年にかけて移動があり、北力号と北雄号が離脱し、日高の付属牧場から北翔号の代りに、葦毛の谷舞号（新しい名は雪嶺号）と明四才のトロッターとサラの子が入り、北雄号の代りに六才のトロッターの騎馬が最近入って来て、飼育に調教に部員もなかなか多事且つ多難のことだと思われれます。

馬術を通し、馬を通して心身の鍛練をすることは全く個人的の活動で可能と思われませんが、馬術部という課外活動の団体の一員である以上、自分を赦して奉仕をする必要があり、友人のため、部のため、学校のため、学生馬術界のため、地域の馬術界、さらには日本の馬術界のために、広くスポーツ界のために短かい学生生活の中に貴重な体験を積極的に経験して将来の勇飛に備えて頂き度く、新しくできる馬場や厩舎により良き伝統を植え付けて呉れることを期待して、劣文で巻頭を汚したことを謝しつつ筆を擱く。



決 意

主 将 梶 村 哲 世

ここ二・三年のクラブの成績及び状態を鑑みて、我々はここで何かをしなければならぬことは確かである。しかし、私には今クラブが、何かを為しうる状態になりつつあるように、感じられる。一抹の不安もなくこう言えるのでは、もちろんない。主将として私のやることは、部員に何かが出来ると、盛り上りをクラブ内に作って行くことにあると思う。そこにおいて初めて部員諸兄に、何らかのしっかりした行動が取ってもらえるものと考え

る。

このクラブには、皆それぞれ色々な考えのもとに参加している。一生懸命練習に出て来る者は別として、ただ馬に乗り、馬と接することに楽しみや喜びを見出している人もいるのではないだろうか。だがこういう人達がいるからといって、運動クラブとして活動出来ないとは考えられないし、馬術部という所は、こうした人達が、存在しうるクラブであり、又必要とするクラブでもあると思う。運動クラブとして、ある目標に向かって進まんとする者にとつて、こういう人達をいなくしたからといって、良い方へ向うとも思われないし、楽しくないクラブ、息のつかないクラブ、窮屈なクラブでは、馬術部という組織は存在できなくなるように思う。

ここで問題になるのは部員の態度である。馬術部の向上、発展

を目指す者の意気をくだし、足を引張るような姿勢（退部その他）は厳に慎んでもらわなければならぬ。再度いうが、運動クラブには、はっきりした目標がある。これをしっかりと把握して、いよいよ自然、「無気力」「無関心」、しいては、他の部員に悪影響を与える態度となって表われる。いかなる目的で部に存在している人であっても、いったん入部した人にとって上記のことは、十分に考えなければならぬ点である。

成績のふがいな原因には、次の事も考えられると思う。つまり、我々は伊式を取り上げただけであつて、実践してはいなかつたのである。基本的な騎坐、挙、脚の出来た人でなければ、伊式を実践することは出来ない。ではこの基本的な技術を取得するには、どうすればよいのか？

練習には、目標突破のためのきびしさ、苦しさが当然あるはずである。ここに参加している人は練習に対する認識を改めて確認しなければならぬ。先程の疑問の答えは、「練習における心構えをしっかりしたものにせよ」となる。今日は何を得たか、と振り返ってみることである。毎日毎日、自分の得た技術を、又は考えを、次の機会に実践してみることである。練習中には、自分の出来る事を最大限出してほしい。「これぐらいで良いのでは」などと絶対的に考えないようにしていただきたい。

次に部員諸兄に望むことは、他人（他部員及び部外者）を批判する事、そしてそれだけでなく、自分ならどうするか、ということとを特によく考え、その人からは得るべき点があるはずであるから、それを少しでも見出す事、この事が重要なのではないだろうか。

何か苦難、失敗にぶつかつた時、自分の未熟さをまず思ふ事、そしてそれを陵駕しようとするだけの覇気がほしい。反骨精神を持ってほしいのである。試合に出て、ゴールさえ出来ないのに、コーチにあやまることもなくただニヤニヤしている。試合には、勝たねばならない。どんな小さな競技にでも、出場したからにはまずゴールを、そして優勝を、という気概が必要だ。所が試合中の意気込みだけでは、どうすることもできない場合が多い。ここにも練習時における訓練が、重要な意味を持つという事を、忘れないでもらいたい。

部員諸兄の一層の努力と、覇気を望み、馬術部史上に四十六年度の成果が堂々と誇示できることを期待したい。

高井先輩を悼む

監督 岡田光夫

高井先輩は私が予科に入学した時、学部の三年目でした。学部の三年目と云えば弱輩ものの予科チンなど仲々近より難い存在でしたが、私は凶々しく八月の合宿には唯一人の予科生として参加をし、丁度対東北帝大定期戦の手伝いをさせられた関係もあって、随分御指導を戴きました。当時も今と同様学部の三年目まで部活動をする方は少なかつたわけですが、昭和十三年度の卒業生は、山下主将の下に、高井・石井・松平・桶本・前川の諸先輩がきら星の

様に活躍されて居りました。中でも高井先輩は畜産の一部に籍を置いて居られた関係もあり特に熱心に部の為に活動され、関東学生選抜軍との対抗戦等の活躍ぶりが私のスクラップブックにはられた新聞記事の中に残されて居ります。ただ試合の度に使役に使われる我々にとつて大きな声で「オイ予科、予科」とき使われたのには閉口した思い出が残って居ります。豪放、磊落、いつも陽気に談笑されていた先輩の思い出しがなかつた私が、戦後四十年頃北見から道庁開拓部に転勤になられて御目に掛つた時、かねて健康を害して居られた事は伺つて居りましたが、あまりに痛々しい御様子にびっくりしてしまいました。終戦後の永い間の國府、中共の留用の間の御苦労がそうさせたとは云へ、昔日の先輩の姿は何所へ行つたのかと目を疑う程でした。しかし其の後健康も恢復され、試合がある度毎に奥様と御一緒に北大の馬場に御見えになり楽しそうに後輩の騎乗振りを御覧になつていた姿が今もはっきりと思ひ出されてなりません。御自分は馬に乗れなくても最後まで馬を愛され、馬術部を愛された方であつたと心から痛惜の念に耐えません。御亡くなりになりました御知らせを御遺族から戴きました折「かねがね御家族との御話しの中にも私の名前が出ていたので取り敢えず私から部の方にも連絡してほしい」と伺いました時、先輩の私に対する御厚情に感謝申し上げますと共に御見舞にも何はなかつたことを心から御詫び申し上げますと共に御なお告別式には酪農大学の山下先生が、友人並びに馬術部を代表され、声涙ともに下る追悼の言葉を述べられました事を加えまして追悼の記と致します。

戦績及び行事報告

記録係 横山豊昭

5月

17日 対酪農大学定期戦

中障害飛越競技

1位 北 (太田)

2位 北 凜 (松井)

3位 ダイナナホウシユウ (花木ド)

小障害飛越競技

1位 北 (太見)

2位 北 武 (今井)

3位 北 凜 (今井)

31日 道自馬大会

小障害飛越競技

2位 北 武 (今井)

3位 北 凜 (松井)

6月

1日 新入生歓迎コンパ

7日 春季部内競技会

10日～17日 七帝戦選手対象強化練習

七帝戦 1位東大 2位北大

	東大	北大	東北大	名大	九大
東大		○	○	○	○
北大	×		○	○	○
東北大	×	×		○	○
名大	×	×	×		○
九大	×	×	×	×	

松井・堤・中寺・太見・今井

7月 8日 北力号離厩

11日 ソフトボール大会

8月 5日～11日 (1・2年目 日高合宿
3・4年目 青草合宿

15日～22日 北日本学生馬術大会向け 選手強化合宿

23日～26日 北日本学生馬術大会

標準中障害飛越競技

5位 北 秀 (堤)

北環, 北慧, 北凜, 北武, 北農

小障害飛越競技

1位 北 雄 (梶村)

2位 北 颯 (柁井)

婦人障害飛越競技

6位 北 環 (前田)

29日～30日 北海道馬術大会

小 障

1位 北 雄 (梶村)

9月20日 遠 乗 会

(幌見峠～盤 湊)

20日～27日 2年目強化合宿

10月18日 役員交代コンパ

10月22日 北秀号貨車積み

10月25日 秋季部内競技会

11月 2日～10日 全日本学生馬術大会

北秀号(堤) 中障・総合出場

11月14日 北秀号帰札

11月30日 競馬場馬場おさめ

12月16日 日高牧場より谷舞・輝得 入厩

- 12月21日 1年目主催コンバ
- 12月30日 部室大掃除
- 1月15日 雪上馬術大会
 中障 北 櫻, 北 秀, 北 凜
 小障 北 櫻, 北 秀, 北 凜, 北 農
- 1月17日 新年会
- 2月 7日 部内紅白試合
- 2月28日 追い出しコンバ
- 3月16日～21日 1・2年目対象強化練習
- 3月22日 北雄離厩
 新馬(トロ 6才・セン)入厩

主 将	副 将	主 務	主 計	飼 育 係	記 録 係	馬 具 係	備 品 係	作 業 主 任	体 育 会 委 員
梶 村 哲 世	梶 井 明	大 見 一	大 見 一	梶 井 明	横 山 昭	梶 井 彰	西 村 正 二 郎	梶 村 哲 世	中 川 元
(獣 四)	(工 鋳 四)	(文 四)	(文 四)	(工 鋳 四)	(獣 三)	(教 二)	(教 二)	(獣 四)	(農 三)

役 員

4 5 年 度 会 計 報 告

月	収 入				支 出							
	入 部 金 費	ア ル バ イ ト	そ の 他	計	飼 育	備 品	馬 具	鉄	遠 征	記 録	そ の 他	計
4	2000	49000	21000		50000	400					3600	
5	38000		102000		1500	1500		85750	1520	10000	37055	
6	17000	95800	10000			17270	10400		84000	150	2000	
7	12500		53040		21000	8425			16000		2000	
8	10000		12000			4885	1700		16500		3000	
9	15000		12000			3850	400					
10	12500		76078		37840	7280		88900		88100	3778	
11	21500		21000			8010					6680	
12	9000		31000							60000	7080	
1	18500					1660						
2	9500						400				1500	
3	11000		94100		1080	4000			11000			
計	142500	144800	432218	719518	111420	57280	12900	174650	129020	158250	66693	710218

マナージャー報告

主務 大見 太 一

去年の十二月に新馬が二頭入って、北大馬術部は十一頭の馬を現在繁養しております。三月には北雄と交換という事で新馬が一頭入り頭数は変わらず十一頭ですが、内三頭はまったくの新馬であります。実は先の二頭の新馬を入れる時に財政面の方はどうか、と聞かれて、私は無責任にも「なんとかなるでしょう」と答えてしまったのです。それがそもそもましがいいだったのです。

四月十五日現在約十萬円の赤字を出してしまいました。役員会において離厩の事も話し合いましたが、やるだけの事をやっただけで離厩の事を考えるべきであるという事になり、一頭も出さない事になりました。こうなったらどこからか金をしほり出さざるを得ません。私も「何とかなるでしょう」と言っただけには何とかしなければなりません。さてどこからしほり出せばよいのでしょうか。先ず一番好ましいのは学生部の飼料代を増やしてもらう事です。現在、学生部からは五頭分の飼料代として六十万円が飼料屋さんの方へ支払われていますので一頭当りの飼料代を増やしてもらうなり頭数の方を増やしてもらうなりして行きたいと思っております。学生部の援助に関しては鉄代のこと等もありますのでこれから交渉を重ねて行かねばならないと思っております。次に考えられるのはアルバイトです。去年は新入生の入学が少し遅れたので春の道管競馬では例年の半分くらいでした。しかし、札幌で

の試合が多かったので何とかもちこたえてきたのですが……今年はその競馬場のアルバイトが秋に少しあるだけなので、夏休みにも何かまとまったアルバイトがないかと、今、捜している所です。最後に考えられるのは後援会の援助です。部の財政がこのような状態ですので先輩諸兄姉には誠に恐縮ですが、後援会費の方をよろしくお願いいたします。



—小さな背の馬—

各馬調教報告

北日本学生馬術大会までの
北武について

四年目 今井敏郎

去年（昭和四五年）四月中頃に、先輩加藤正昭さんの北武号を、一年間僕が乗るということであずかった。この頃から八月末までの北武騎乗日誌をめぐりながら、ざっと何をして来たかを書いてみる。

一応の目標として北日本学生馬術大会の総合をめざすことにした。その時考えたのは、総合馬をつくるには毎日どのような練習をしたらよいのかという事だった。今村安氏の「障碍飛越の要領とその調教」という本に学び、又自分でも色々考えて結局次の四つの要素を組合わせればよいであろうと結論した。

- 肺心訓練
- 筋力訓練
- 逍遙運動
- 障碍調教

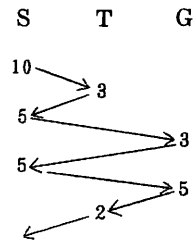
始めの二つは基礎体力をつけるものであるが、北武の場合は四四年の秋からほとんど運動をしていなかったため、特にこの基礎体力の充実という事を重視した。次に逍遙は順致を意図したものである。しかし毎日の練習では北凛にも乗っていたため北武の騎乗は一時間ほどしかなく、これらすべてを一日の練習に盛込むこと

はできなかつた。またできたとしてもそれはしない方がよいであろう。さてそこで、運動量についても一日ごとに強弱をつくる等のことを考えて次の二つのパターンを考えた。

- A 肺心訓練四〇分………駈歩の持続
逍遙運動二〇分

- B 筋力訓練四〇分………坂の登り
障碍調教二〇分

肺心訓練は左の図のように騎歩を三分五分と持続することから



はじめた。最終的目標としては七月末までに二〇分の持続駈歩が無理なくできるところまでもっていきたいと思った。筋力訓練は坂の登りが一番効果があるとの事なので坂さえみつければ登るようになった。例えば野球場の土堤、公園の小さな山などであるが、札幌は坂が少ないので苦労した。

- 五月 一日 A
 - 二日 B
 - 三日 A
 - 五日 B
 - 九日 B
 - 一〇日 A
- 速歩の時五〇cm程度の障碍、駈歩の時一〇〇cm程度の障碍通過。

五月一三日 障碍 速歩にて五〇cm、駢歩にて一〇〇cm。

一四日 A 三分〇八分 (G)

一五日 逍遙四〇分、障碍一〇分。うち駢歩五分。

一六日 逍遙六〇分、障碍一五分、駢歩五分。

一七日 対酪農大定期戦 小障二位 (満点) 運動量としてはふだんの練習と同じ。

一九日 A 五分〇八分 (G) 駢歩の時低障碍をどんどん通過。

二〇日 B 始めの三〇分一年目部班に。その後六〇分障碍はせず並歩六〇分、坂の登降。

二一日 加藤正昭さんが立ち寄り、午後逍遙と軽い運動。

二二日 A 五分〇七分 (G) 競馬場の走路にて五分、次の七分は駢歩で障碍通過五〇cm程度。着地の時首を下げるようにしてつっ込むのが気になる。停止が安定しない。

二三日 B 並歩六〇分

二四日 A 競馬場まで逍遙。馬場に帰って駢歩、速歩にて障碍八分。停止がよくなった。

二六日 昨日改蹄。一年目を乗せ速歩引き馬。うるさくて運動にならない。これはしない方がよからう。

二七日 速歩を主に障碍通過。速歩における緊張及び歩度の伸長が得られなう。

二九日 障碍一〇分。トンネルに初めて向け、初めて切られる。この後二回飛ばせたがいずれもつまった踏切。

五月三〇日 競馬場にて速歩七、八分、駢歩向手前走路二周す

つの準備運動の後、駢歩にて障碍通過。六〇cmからまぼこ一〇〇cmレンガ、一一〇cm石垣など。

三一日 北海道自馬大、小障碍二位 (パラージュにて一落、

最高は一一〇cm三段)。なんでもないような第一障碍八〇cm単一バーに前膝をぶつけて落下。ハミがはずれていたかもしれない。

六月 三日 前膝のハレも引いたが、あまり運動はしなかった。

五月いっぱいには先の計画を忠実に実行した。対酪農大定期戦がかわってからは北溟をおり、北武だけに乗るようになって、約二時間を北武の騎乗にあてることができたので、先の練習のバターンから少し変わった。障碍調教を主にして、これを毎日の練習に入れ、肺心訓練、筋力訓練は障碍飛越と並行して、というよりの運動の中へ組み入れて行なうことにし、逍遙運動は毎日の練習時間の始めか終わりに三〇分〜一時間行なうことにし実行した。この頃は新入生がまだ多くて北武にも乗せなければならぬ事があり、逍遙ではよく新入生を乗せて引き馬もした。

六月一日 始め一年目部班、速歩では真直ぐはしらない。一

年目の練習には使わない方がよいだろう。輪乗りにて並歩、速歩、駢歩運動、その後速歩にて障碍一五ク、駢歩にて五ク通過。速歩で障碍前でつまる事が少なくなり、よくなった。

一二日 輪乗りで内側に入ってくる。脚で防ぐよう努力。停止の扶助への反応がにぶい。速歩にて障碍三〇ク (六〇cm程度)。踏切りがよい。切ろうとする

様子など全ったくみられない。

一三日 一年目を乗せて引き馬中濠を越えさせたが、全ったくいやがらず、よく見てとんでいる。

三〇日 速歩運動、曲線で歩度がおちる。元気なし。

七月 一日 駢歩で五〇cm (W一二〇〜三〇cm) を飛んだが重く、軽快性がない。

二日 速、駢歩にて障碍。前日改蹄した事もわずれ運動量を増した事は反省すべし。

五日 速、駢歩にて障碍 (H一一〇cm, W一〇〇cm)。
後半、半沢先生騎乗。疲れてくると不正駢歩をする。

七月に入って、北日本、道大を二ヶ月後にひかえ、心新たに計画をつくった。(火中、水強、木弱、釜強、土弱、巨強、且馬休となるように運動量を考え、水曜日に経路をまわるようにし、弱の日には馬場の練習と逍遙の時間を多くした。又、この夏は小栗コーチが日高へ行って居なかつたが、札幌へ帰った折り試合の一週間前くらいまでは一日おきに経路を回るようにと指示されたので、七月二十九日から八月二日までではできるかぎりそれを実行した。経路は三年目、四年目、春田さんが交代で考えた。程度も計画的に高くして行った。初めは八〇〜一〇〇cm程度、八月上旬は一〇〇〜一二〇cm程度、八月九日に一三〇cmの三段を入れて、その後は八〇〜一〇〇cm程度に下げて行った。一六日は北日本二三、四、五日の一週間前だが、これ以後は強い運動はひかえた。

七月一日 はみ受けがうましくない。そのためか障碍でタ
イミングが合わず、前肢が上がらない。

二五日 新国際馬場を踏む。春田兄評「全体的にペースが

速すぎる。ポイントがでたらめ。」伸長駢歩から並歩へスムーズにおちない。反対駢歩に入ると落着いた短縮駢歩をしない。馬体が硬い。駢歩発達の時頭を上げる。

二六日 馬場運動、沈静に欠ける。特に駢歩運動は回転以前、歩度の問題だ。五十嵐兄評「反対駢歩を持続するため反対側へ内方姿勢をとらせていなければいけない。横歩は進行方向に首を向けなければいけないので、肩から逃げられるくらいならやらない方がよい。」経路、一〇〇〜一一〇cm。一〇〇cmのトリプルでふらついた。急旋回では歩度がおち硬い感じである。

二九日 やや疲労がみか歩度伸びず。障碍六〇〜一〇〇cm。

雨のため下が悪く、踏切りにためらいがある。

三〇日 逍遙(第二農場方面)

八月二日 新国際を踏む。並歩からの駢歩発達に難。反対駢歩はいまだに安定せず。

一三日 新国際を踏む。やはり駢歩発達がよくない。障碍速歩にて斜門扉、駢歩にてカンオケ二回通過。

一四日 順致と軽い運動(競馬場にて)。九〇cmのドラマバーなどを飛越。

一七日 競馬場へ順致、障碍一〇ヶほど通過し軽い運動。

一八日 逍遙のみ。

一九日 競馬場にて障碍、トリプル七〇〜九〇〜九〇cm、

レンガー 一〇〇 cm、石垣 一一〇 cm、一〇回ほどにしておく。

二〇日 新国際を踏む。ハミにねばり、停止・減脚に重い。

二二日 競馬場にて障碍。二段平行一二〇 cmを三回通過。

春田兄に推進不足を注意される。

二三日 北日本学生馬術大会、中障碍。

〇八時 北大を立つ

〇八時二〇分 競馬場入厩

〇九時 朝飼

〇一〇時二〇分 装鞍

〇一〇時三〇分 準備運動開始、汗がにじむ程。

〇一時二〇分 出場。トリブルCで一落下、最終

三段(H一三〇、W一五〇 cm)で三拒止失権。

〇一六時 北大へ帰り夕飼。

二四日 総合の調教審査及びスティール

〇七時 朝飼

〇八時 北大を立つ

〇九時三〇分 準備運動開始。

〇一〇時三〇分 調教審査。興奮気味で、馬場の中

では終始ハミをいやがって頭を上げる。停止五秒

もじっとしていない。おさえすぎたか、後で梶村

に前進氣勢がまったくなく注意された。結局三

五点くらい。

〇一三時 昼飼

〇一四時 装鞍

〇一四時三〇分 準備運動をおえ休養(並歩)。

〇一五時 スティール、ひどいどしゃぶりで時計

も曇ってみえない。練習用の障碍を飛ばしてもス

リップしてひどい飛び方をする。結局第一。第三、

第四でそれぞれ一拒止、第七にて三拒止失権。ド

ラム平行H一一〇 cm、W一一〇 cm。埒ぞいにはし

るがスピード感がかめない。結局スピードにの

せきれなかった。全ったく重い感じだった。

反省記

中障の時は練習中からやや重い感じだったが、口向きもよく、飛越にも軽快性があった、なかなか良いと思っていた。最終で拒止されるまで拒止されるとは思ってもみなかった。最後は障碍が大きく見えた。一三〇 cmの三段は練習の時にもとんであったが、巾については考えが甘かった。一五〇 cmも巾のある障碍は練習していなかった。しかし最終的に反省すべき事は、その時点で馬を飛ばせることができなかつたということであり、推進力と気迫が足りないといわれても仕方がない。

総合は完全に調子をくずしていた。とにかく帰ってきたのだが。ベースに乗せるということをあまり意識していなかったが、第一、第二、第三障碍あたりまでの比較的長い距離で、駈歩をスティールのベースに乗せるという事が大事だと思う。またぬれた草地でスリップをこわがっていたが、少々条件が悪くても強引に飛んで行くだけの力が無かつたという事も言えると思う。とにかく惨敗だった。

今度は、ヨカッタ、ヨカッタと結べる騎乗日誌を書きたいものである。

オキルソン調教記

桃屋典平

オキルソンと私のつきあいは一年三、四ヶ月に なりますか。去年の三月頃からの話としましょう。その頃は南山道大学の構内でランニングなどやっていたのですが詳しい事はもう忘れられました。その頃の事ですが、オキルソンがいつもはいているゲタにひびが入りました。不謹慎にも私は大した事はなかうと思っていました。ところがオキルソンは次第にびっこをひくようになりました。そこでゲタをぬがせた所びっこは治りました。あとで鍛冶屋のおじさんに聞いたら「そういう時はすぐにゲタをぬがすもんだ。」と言っていました。その後足の故障はありませんでした。さてオキルソン教育についてですが、彼は以前から脚に反抗的でした。しかし春頃にはかなり直っていたように思います。五月初めに隣校の原始林大学と対抗の試合がありました。その時は地元の有利益も手伝ってか、中障碍で一落下でした。その後八月の寒帯地区大会に向けて練習したのですが、この間もう少し大きめの障碍に馴らしておくべきでしたなあ。もっともっと思いついた練習をすべきだったと反省していますよ。寒帯地区大会の一ヶ月前の事です。その頃突進癖があったのでそれを仰える沈静運動ばかりやっております。記録会があって、その時ろくに準備運動をしないまま経路をまわりましたところ、こっぴどく反抗されました。こ頭を振って横へ逃げるのです。しごきが足りなかったのです。こ

の時はあせりました。「これは次の試合には間に合わない。」と思いましたが、とにかく試合までできる限りの矯正をやってみることにしました。手の中に入れる為一つの障碍を跳び終ったら一回止め、次の障碍へ向かうという練習をしました。そのうち跳び終って手網を控えるとすぐに止まるようになりました。何しろ前へ出る事は余り好まないが、止まったり退がったりすることはすぐできるという怠け者のオキルソンのことですから。しかし障碍をきらう傾向はなかなか直りません。そうするうちに寒帯地区大会になりました。一日目は中障碍です。暑い日だったので準備運動は五十分くらいで密度を濃くし、かなり強い運動をしました。けれどだめでした。試合場へ入るとガラリと変わるのです。こっちは満身の力でけとばしましたが障碍に近づくに従って燃料のきれた車みたいになりとスピードがおち、一度とまってから跳び上がるという感じでした。障碍もずいぶんこわしました。結局失権でした。翌日三種競技にできました。この時はクロスカントリーの前にかなりオキルソンの体をほぐしてやるべく運動したのですが、みじめにも第二障碍で三回反抗されて雨の中を退場です。さすがの私もこの時はがっかりしましたなあ。その後も二、三の試合がありましたけどれも失権でした。鎌田先輩に試乗して頂いた折「これだけ足に反抗するのではなかなか……」と言われました。考えてみるとオキルソンにはいろんな事を教えてあり、練習中はよくやってくれたのですがどうも私を信頼していないようです。もっとも私の感覚としては、彼の昔からの反抗癖は完全になくなる事はないという気がします。心残りなのはどの試合の時も十分な準備運動ができなかったということです。やはり二時間タップリ

汗をかかせる必要がありますな。一時間くらいでは「前向きの姿勢」をとってくれません。一時、私が余力を使わなくてもかなり脚によく反応して走ってくれるようになったのですが、秋の練習内容が軽かったのと病気の為にまた以前のオキルソンに逆戻りしたようです。

一つ感じる事は、オキルソンはバカではなくてズルイやつだという事です。例えば練習の合間に休憩をかねて障碍の前へ行って障碍を見せてやります。それが見慣れた障碍だとぼんやり前をみています。離れようとして手綱をひくとあわてて頸を伸ばして障碍のおいをかぐという事があります。また常歩から速歩を発進する時頸をあげる癖が直りきっていませんが、この時鞭を使って下げさせると、そのうち発進の際一度頸を上げかけてから、思いだしたようにぐっと下げるといふ事もあります。扶助に従うというより、合図があった時こやればえさをもらえろという条件反射的要素が非常に強い感じがします。

今年に入ってから私も余り乗っていないのですが、のりついでくれる人もいないようです。馬の頭数も増えたことですから、「強制退去」させられる可能性が大いにあります。この文が本に載る頃、ひょっとするとオキルソンは厩舎から、いやこの世から姿を消しているかも知れませんなあ。

かつての馬術部の看板馬北櫻号も、明けの十七才、入厩当初からこの消化器の弱さも手伝ってか、ここ二・三年めつきり体力が衰えてきたように思われます。しかしまだまだ「やっついていける馬」です。

さてこれからの方針として、まず彼女の体調をくずさないようにすること、外傷その他の疾病をおこさないようにすること、はちろん日々の練習による疲労を蓄積させないようにすべきであるうと思っています。ここ数ヶ月の北櫻の状況を述べてみますと、少々運動量を多くすると翌日は必ずといってよい程四肢に熱があります。以前からあった左前肢球節上部のふくらみは、心もちか大きくなっていくような気がします。又朝厩舎から引き出すときは神経痛の為かいつもよたよた歩きです。ただこれらのことは今に始まったことではないので、それ程気にしてはいませんが、練習中の運動課目や練習後の手入れに念をいれる事など十分配慮せねばならないと思っています。

北櫻号のチーフとなって四ヶ月。雪の中での今までと、これからとではすべてが全く異なってくるのですが、これからの計画としては、

(一)一週間六日の練習を、休・弱・強・弱・弱・弱強というふうにもっていく。

からまた使いだしたのですが、二週間のブランクはまた元の小さな雪塊が落ちる音にもびっくりする馬になってしまっていた。これからは以上述べた事柄などを教訓として、又今まで北晨に接してきた体験などから、僕なりに調教して行こうと思っています。

馬体状況については前述の如く、左後肢の飛節内腫が今だに完治していません。従って過度の運動が出来ないので、運動量が少なくても内容密度の濃いものを目指して調教していきたいと思っています。調教方針について言うなら、とにかく障礙飛越馬を目標にしている以上障礙を飛ばなければ話になりません。そこで馬場外での常歩↓速歩↑駈歩、停止後退の後速歩及び駈歩発進の後、高さ60〜70cmの低障礙飛越に、練習時間の半分近くを費やす積りです。また脚に対しては非常に敏感な馬で、自分の未熟さについても反省させられます。

以上北晨は小栗コーチに調教され、一時栄光への道へ歩みはじめたかに見えましたが、身に降りかかった不幸のため、その力を発揮出来ずに来ました。大丈夫当雄飛安能雌伏の言にもあるようにこの四年間は、その大翼をつくろうおもいであったと思います。技術、理論、感覚、あらゆる面で未熟ではあります、昔日の栄光を想い、とにかく北晨で勝ちたいです。

北 秀

四年目 大見 太 一

去年あたりからデコは北大のホープと言う事になっています。実際、デコはそれだけの実力を持っています。只、人間の方がまだ安定した実力という物を持っていない為に、試合の度にポカをやって、皆さんのデコに対する評価を実際よりも低くしている訳です。私が一年目の頃のデコと今のデコとを比較して見ると体付きだけでも、随分、変わっています。その頃の写真を見ると腹ばかりがかくて、四肢をふんばっている所は、まるで、おもちやの木馬のような感じでした。今のデコは母親ゆずりだと言われているそのお尻に、ますます、磨きがかかり、腹も幾分小さくなり、父親ゆずりの、その板を張り合わせたような肩のあたりにも肉がつき、短軀ながらも、力強い飛越馬に成長しています。これまでデコの調教に携わって来られた先輩諸兄の努力の結晶とも言えるこの馬に、この冬の間乗って、私自身、色々な事を教えてもらいました。それにひきかえ、私がデコに教えた事はほんの数えるほどしか有りません。その為に、私はこのデコの調教報告を書くにあたって、非常なる困難に遭遇しておる訳です。いっそ大見太一の調教報告をデコに書かせた方が、と思う程です。しかし、そうした所で、ろくな調教報告は出来ないでしょう。デコにして見れば、いっそも上でぶらぶらしてバランスをくずし、ハミを引っ張る私に対して、恨みつらみの数々をここぞとばかりに、並べたてず

にはおれないでしょう。ですから、私は形ばかりの調教報告でも書かざるを得ないので。これをデコが知ったら、さぞかし怒って、うそぶく事でしょう。「生意気を奴だ。テメエが調教されていながら俺様の調教報告を書くなんて、よし、明日はこらしめに長靴の上から思いっきり足を踏みつけてやる。」デコは女性であるからこんな品の悪い言葉は使わないと思うけれど。そのすつとぼけた顔で、そ知らぬふりをしながら、私の足の親指のあたりを見さだめて、ギョッとばかりにふみつけるでしょう。それでも私は決死の覚悟でこの調教報告を書かねばなりません。なぜなら小心者の私は、サブマネージャーの田崎君が「原稿はまだですか!」とあの細い目をせいいっぱい見開いて、にらまれる度に、脈搏が一分間に百位になって、命のちぢまる思いをしているのですから。その田崎君が私の分の余白を三ページもとってあるので、実に、くだらない、くだらないと思いつつながらこんな事で字数かせぎをやってきたのですが、そろそろ本題に入ります。

さて、この冬は、学生部に前もって馬場の除雪をたのんでいたの、割にこまめに馬場の除雪をしてもらい、いつもの年より冬の間の運動量は多かったです。反面、外に出る機会が少なくなり、順致が充分でない所がありましたので、今は馬場で運動した後、できるだけ外に出て歩くようにしております。デコは以前、よく交突、追突、それに腹帯擦傷などで休む事がよくありましたのでその点は十分注意したつもりです。この冬はそういった類の事故で馬を休ませるような事がなかったのは人間の調教上幸いであつたと思っております。さて、私がデコの調教を引き継いだ頃の欠点といえば、額をつっぱったまま走る。頭が少し高い

回転の時、肩から逃げる。駈歩の歩度がかかつかまらない。等が上げられます。この内、先ず、額をつっぱる癖を、自分では随分、矯正したつもりでいました。只、下級生がデコに乗る時には、はみ受けをゆるくさせているし、脚も弱いので、額を突張ったまま走ります。それでも、妨害さえしなければ、私が乗った時より、伸び伸びとしたい運動をする事もあり、これは私が、ハミを引っぱったり、当てたりしたためで、もっと馬上で人間が、安定しなければと反省しております。近頃、馬上で少しばかり前より安定して来て、始めて、小栗さんの執拗をまでにくり返される注告を全面的に受け入れる事が出来ました。辛抱強く、何度も何度も注告していただいた事に、今は、只々、感謝あるのみ、ついでながら松井兄の私の拳の高い事に対する御注告も幾度となく、くり返され、今だに絶対的な拳の低下が出来ずにいた事を恥かしく思うと同時に、よくもこれまで私を見すてずに御注告下さった事を心から感謝いたします。しかしながら、この拳の低下と言う事は、前の間違った強いハミ受けを改ためる事により、解決された。と思っております。と言うのは、この冬の間中、私がやった事は額をゆるげさせるなどという高級な（私にして見れば、これは、相当、高級なテクニクである）事ではなく、実に今から考えれば、ゾットするので、ハミにぶらさがっていたと言うより他に有りません。ぶら下ってはいは、「如何なる状況下にあつても手を弛める事ができる。」という訳には行かない。それにしても、冬の間中、強いハミ受けで乗らねばならなかった事は、私にとって悲劇でした。氷点下十数度の中、長時間、強くたすまで薬指をしめつけていると、たすなを離し血がかよい出した時、涙が出そうに

なるほど痛むのです。その痛さは、私の持病の○に勝るとも、劣らぬほどで、おまけに、雪でぬれたままの長靴をはいた為、足が凍傷になり、両足に随分大きな水ぶくれが起きたりして、身から出た錆とは言え、私はこの時ほど、北海道の冬の寒さを呪った事は有りません。それに加えて呪うべきは、私の間借りしてある静山荘の近くの某製薬会社である。人目もはばからず私の持病の○の一字を、ビルの屋上、五メートル四方はあるかと思われる大広告塔に、ネオンサインも鮮かに、赤々と書きたてておるのです。私はそれを見る度に腹が立ち、如何に病状悪化しようとも、絶対にあの会社の薬など買ってやるものかと心に誓うのです。閑話休題、次に水潦を嫌う事について、北大の馬場の濠は恐れずに飛ぶので、それほど気にとめていなかったのですが、競馬場の水潦で止まられ、次の日からさっそく水潦の調教です。北大の濠の水は稠れてしまって、一滴も入っておりませんでしたので、下級生に水を入れてもらって、その日は小栗さんの指示で両方の側から計二十回、飛んでは青草をやり飛んでは青草をやりそれから、水潦の飛越は毎日必ずやるようにしています。さて次に、左に逃げる事について、これは明らかに、左のたずなのおさえと左の脚の弱いためと思われれます。右手前の駈歩が少し出しにくい事も考えあわせて、右手前の輪乗りの開閉で人馬共に矯正してゆくつもりです。短縮駈歩のまずい点については、常歩、速歩、駈歩、の内、速歩の伸縮運動を多くやっていると、実際、速歩の場合が一番上手なので、駈歩のかぎられた時間内にできるかぎり、歩度の伸縮を入れて、ゆったりとした駈歩の出来る馬にして行こうと思っております。私自身、性格的に細かい所まで神経がいきとどかず、

デコにも随分、迷惑をかけております。雑で乱暴な扶助の為に、騎手への信頼という大事を宝を失なわないよう私も細心の注意を払って、乗って行こうと思えます。小栗コーチのあのビリビリするような細心の注意と大胆な決断力にくらかでも、近づくよう努力して行けば、デコも許してくれるでしょう。

もう夜も更けてきました。今頃、デコは夜の投草も全部、平げて、自分のオシッコで味つけた寝わらをモグモグ食べながら、自分のたれたポロの上にゴロンとねころんであの暗い馬房の中で奇草を腹いっぱい食べられる日を夢見ているのでしょうか。

新馬紹介

雪嶺号

四年目 榊 井 明

昨年の年末に入厩したこの白馬は、かなり年老いているらしく初めは乗れるか案じたものです。

ハミをかけさせることから教え始めました、雪がある間は裸蹄で馴致ばかり毎日行なっていました。牧場では、しつけが厳しかったのか人に対してビクついています。おばあちゃんなので少なからず頑固なところが外に表われるときがあります。僕は新馬という点を考えて少し弱気なしつけをしたので目立って我ままになっってきました。現在は特にこの点に注意して自分勝手にならせまいとしています。手入れは大変おとなして大変助かります。雪が消えてから鉄をはかせました。が肢に熱をもつようになり思った様に調

教が進んでいません。調教に際する目標は障碍馬ですが年令面であと三年くらいの活躍期を設定しています。卒業まであと半年くらいしか乗れないのですが秋頃までには一口以下の経路を安定走行できる様にとのコーチからの至上命令もあり最後のクラブ活動の総括をこの馬に託すつもりで頑張っています。

千^{ジョン}里^{マリ}馬^マ号

四年目 梶村哲也

今年の十二月に入厩したばかりで、明四才になったというのに、体高は一四〇cm余りあるだけで、非常にチビという感じがします。鞍及びハミをつけるのは初めてで、まず鞍とハミにならせることに時間をかけ人が乗ることに馴らせて来ました、一ヶ月たった今ようやく、脚を使えば前に出るようになってまいりました。何しろ人を乗せることには馴れていない小さい上に、ということでも、非常に苦勞をしている様子で、ふらふらしながら歩いています。手入れは大変で、いやがって、あばれる事はほとんどありません。何よりも足が丈夫な事は、うれしかぎりです。今までの（私達が入部して以後の）入厩馬は、全て、足に欠陥があるために鞍馬からおりて来たものだったように記憶しています。本当に足が丈夫ならば、どんな馬でもいいと、喜んでゐるしだいで。

今後、どういふふうに乗っていくかということについて、今考えているのは、まず人に馴らせながら、もう少し体を大きくして

やりたいということですが。こういうことをしながら、速歩でも、駈歩でも、すなおに歩き、今年の夏頃には小ささを障碍ならどんなものでも飛べるようになっていこうと、思っております。若いことだし、あまりあせって調教してゆくつもりはありません。毎日毎日、新しいことずつくめで、彼女にとっては必死なんでしょうが、私にとっては、おもしろい事や、びっくりするような事が山ほど出て来て、やりがいがあります。あまり小さいものだから、かわいらしくてしかたがないのですが、時々強情を張ることがあります。そこが又、とてつもなくいらしいのです。

北 勇 号

四年目 梶村哲也

北雄号と交換に入厩した馬です。
六才のトロッター。セン 鹿毛
非常に小心ものですが、新馬としては、あたり前のことかも知れません。しかし前にはよく出るし、歩き方もよいようですし、いい馬になると期待しています。北雄の換りに十分かわいがつてやるつもりです。

北力号 離厩の御報告

春 田 恭 彦

前号の部報に新馬として紹介いたしました北力号を、今年はこのような形で皆様に御報告しなければならぬのは、非常に心苦しく申しわけなく思います。部報の紙面を借りて深くおわび致します。

去る四十五年四月三十日の練習中、私が騎上しておりました時の事故が起こりました。以下、日誌から抜粋して離厩までの経過を御報告致します。 四月三十日 事故・・・

予定していた最後の課題である二・五米の幅飛び（H五〇）を行ない、続いてH一〇〇・七〇W一〇〇の二段を三回飛越して終わるつもりであった。これを二回きれいに飛んで、あと一度飛んだ後、整理運動に移るつもりでそれに向かった。この時、普通なら踏み切るべき所で一步踏み込み、前肢を手前の横木にひっかけた。バーが肢にからまり支柱ごと倒れ、馬は頭から前にのめり一回転して馬転、騎手は前方に投げ出されていた。気がついて後をふり返ると、北力は首をもたげて起き上がる所であった。ダイオ一の例があつたので（ダイオ一は同様の事故で一月に即死した。）一時ひゃつとしたが起き上がる馬を見てほつとした。しかし起き上つたあとも元氣なく放心状態であつた。少ししてから左後肢にひどい跛行を認めた。又いつもならば、腹の下をブラシされるのをいやがってあばれまわるのだが、どこをさわっても何の反応も

なく、首を垂れて放心している。頭も打つたようなので心配して獣医に連れて行く。安静にして二・三日してから又来るようになることで、内出血があるならば、昼までもたないだろうという診断であつた。外傷はないので、腰と首にバスタノゲンを塗る。食欲はあるが、飼桶を下におくと、首が曲がらずむりに首を伸ばし全身をけいれんさせた。夕方迄同じ状態（後肢の跛行と放心）。

その後、首の痛みはとれたようですが、右肩と左腰の跛行はなおひどいものでした。一ヶ月程の休養で、軽く逍遙程度に騎上を開始し、並歩での跛行がなくなったのは六月の半ばをすぎていました。速歩運動を少しずつやりだしたのですが、以前の北力とは思えないような歩どりで、腰のふらつきが目立った。七月にはいっても腰のふらつきは全くなおらず、離厩を決めた次第です。

事故の原因は恥ずかしい話ですが、踏切の瞬間馬口との接触が弱まったか、全くなくなつてしまつたかによるものと思います。それまでの北力は一・三米以下の障碍は、北大馬場でやる限り全く良好とはいえないまでも素直に飛んでおり、心配していた左前肢も故傷なくシーズンに期待をかけておりました。しかしそれまで事故は起こらなかつたとはいえ、このような事故が起り得るとは十分予想してより注意深く調教を進めなければいけなかつたと反省しております。

短い間でしたが、北力号の調教をとおして馬術のすばらしさと難かしさを再認識させられました。

北雄号離厩について

主将 梶村哲世

三月下旬に、知人から、あて馬にどうかとの話があり、彼と交換に、六才のトロッターをいたたくことに話が決まりました。

去年の春から障害を始めて、夏までは非常に調子よく調教が進み、小さな障害なら絶体にひっかけたり、又止まったりするようないこともなく、夏の大会には複合ぐらいいに出してもいいと、考えていた程だったので、秋頃から、再び足が悪くなり、冬にはフレグモーネ様に右前肢全体に腫脹を来しました。

この馬は入厩したときからエビハラであって、しばらく使えなかつた上に、四肢全てに異常が見られていました。一日中馬房に入れておくと、立ち脹れがでるし、とにかく肢は前から悪かつた馬です。

最近はあまり運動もせず、初めから調教をやりなおしてゆかなくてはならない状態でした。僕自身としては、もう少しやってみたいと思っていたので、とても残念です。何しろ体は非常に大きいし、今年はさらに能力をのばしてやり、中障ぐらいいはなんの支障もなく帰ってこれる馬になると思っていたのですが、いかにせん、足がどうもよくならないという所でした。

今まで一年余り、部員の皆さんに迷惑のかけっぱなしで長い間、お世話になった今、離厩するのは心さびしい限りです。でも廃馬とせず、あて馬にでもしていただけた

ことに深く感謝の意を表します。(あて馬になることについての彼の弁は異なるかもネ)

卒業生プロフィール

今春、馬術部は四人の卒業生を送り出すことになりました。一喜一憂多くの苦勞をものりこえ、馬術部の発展につくしてくださいました。諸兄に心から感謝したいと思います。部報の誌面をかりて、卒業生の御紹介をしたいと思います。

太田清澄 昭和四十二年入部 農学部

ちょっぴり憂いを秘めた顔。その顔にやぎヒゲのあった時期が今でも強く印象に残っています。身体的理由で主将を交代なさるなど兄の四年間には、いろいろ苦勞が多かったようですが、でもとってもすばらしいこともあったのでは？
下級生のよき相談相手、話のわかるお人でした。

堤秀世 昭和四十二年入部 獣医学部

馬術部を離れ、馬学にますます興味をもったという兄、愛馬北秀と常に共にあり、障碍飛越だけでなく、人に尻をむけて下級生を驚かすという芸をも教えていただきました。
しかし兄は何ととっても、コンパの時のありがたい？長演説の方が有名！馬術同様勉学の熱心さをかわれてか、今しばらく獣医学部に在学中とか。

中寺清久 昭和四十二年入部 工学部機械工学科卒

とうとう出ました九州男子！最も兄の九州男子らしき姿はコンパで炭鉞節を歌っている時だけという声もテラホラ、

それほどスマイルムードの兄でした。ほれた北農号のカムバックをかなえられなかったのが、兄の唯一の心のこりではないでしょうか。いそがしい学部になりながら、馬術にはげみ、それでいてよくすすきのあたりで顔をみかける兄でした。

松井亮 昭和四十二年入部 医学部

四十五年度主将、去年の作業の鬼は今年に練習の鬼と化したか？主将として苦勞の多かった馬術部生活、鬼とは責任感の強さのためでしょう。兄のナツメロは、いつ聞いても何か聞かせるものをもっていました。そのレバートリーの広さはただ驚くばかり。当分は北大に在学。
四年間ごくろうさんでした。

卒業生の横顔



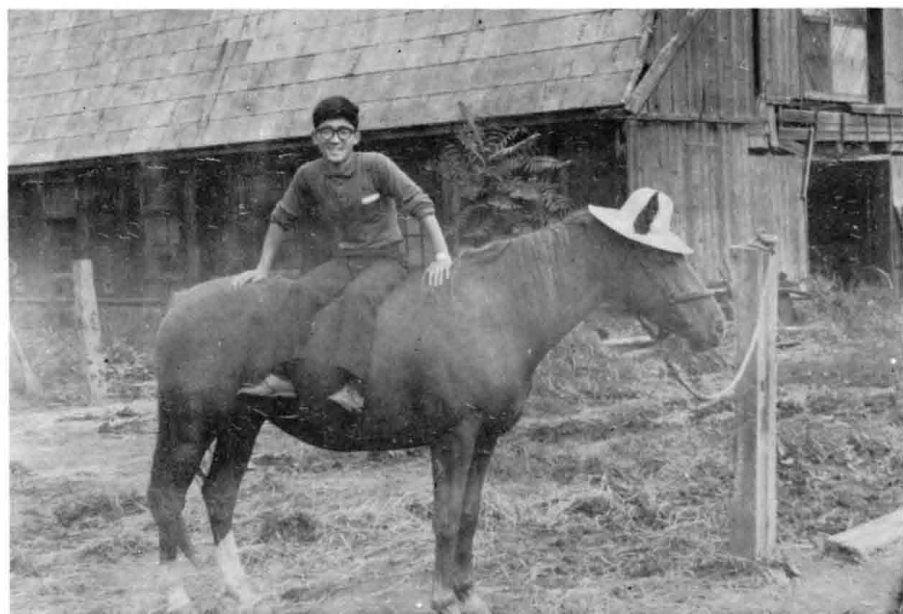
道大にて太田兄と北瑛



愛馬北晨と中寺兄



作 業 の ? 松 井 兄



デ コ (北 秀) と 堤 兄

新馬紹介



雪 嶺 号



チョン
千 里 マ 馬 号



北 勇 号

デコ（北秀）に乗って

堤 秀 世

部生活から離れて数カ月の現在、馬学に対しても伊式馬術に対しても以前より関心が増したほどだが、部の事はほとんど何も考えなくなつた。

無我夢中で馬に乗っていた時の事が文字通り夢の中のような気がする。

現役の時、先輩が部に無関心のように思え大いに不満に思ったが、現在の僕の態度に部員はどう思っているのだろうか。

五年目として馬に乗る気でいたものの、最高学年としてやってくるだけの自信を持つ事が出来ず、学校の方もおかしくなり、どうにでもなれと部生活から離れた。

三年半余りの間、部をやめようなんて少しも思わず部生活を続けた原因は、数えればたくさんあろう。

ただ何か甘いものがあつた事は確かだ。

だから四年目になり、調教とか試合など場を与えられた時にそれを生かせられなかったのだろう。

しかしこの三年半の部生活に何の悔いもない。

デコを始めいろいろな馬に乗つたし、伊式馬術に関心を持つ事が出来たし、多くの人に会い貴重な話を聞く事が出来た。

今思うと明らかに矛盾と思える事がある。

二年目の時から全日本学生馬術大会で思う存分やると云う意欲

が一方ではあつた反面、試合は他の人と馬にまかせ、小さくスマートではないデコでのんびり馬術部生活を楽しまたいと思つていたので。

デコはほかの馬が寄つて来ると邪魔だとばかり蹴るし人にもよく蹴ろうとする。

デコは僕が一年目の夏、部に牧場から帰つて来たのだが、まだはいつたばかりの時からよく人を蹴るまねをした。

「デコの真後から近づいて尻をたたいたら千円やる」と云つた人がいたが、恐ろしくてとてもそんな事は出来なかつた。

デコのサブやチーフになつてから、この蹴るのを直そうと思つた。

尻とか腹をさわりおとなしくしていたら、人參をやると云う事を根気よく繰り返しているうち、尻をたたいたら、エッチな奴だなという顔をしながら人參をほしがるようになつた。

馬繁場につながれている時、人の方に尻を向けて来る。

ある時は声を出して逃げ、ある時は棒を持ってしかる、こんな事をしていたら、悪い癖がつくばかりだ。

動物園には悪い癖のついた動物がたくさんいる。

オリの中と云う異常環境の動物達のような生活を我部の馬にさせてはダメである。

オテをする馬がいると云うので、デコにはオテとオカワリを教えようと思つた。

オテは前膝をまげりまくするが、オカワリは乱暴にし危険なので教えるのをやめたが、ごう云う経験からこつちが教えられる事が多かつた。

ある馬の本にはフレイメンはオス馬しかやらないような事を書いてあるが、たいていのメス馬もやるようだ。チョコレートやタバコなどの刺激物で行なうし、一度デコがチビの小使で猛烈なフレイメンをやっていた事もある。ノーセージのかじりかけでフレイメンをしていた事もあるが、これは臭覚によるものではなく視覚によったのかも知れない。

映画で見た馬が階段を上っていたのでデコもと思つたら一気に飛び上ってしまったり、梶見峠を幾度か越えたり、狸小路を縦断したりその他限りない思い出がある。

四年目になりデコで試合に出るようになった。

四月二十日、札幌馬術研究会創立記念大会の新馬障碍では、満点だった。

五月十四日、対酪農戦にそなえ経路を廻ってみたが調子は悪く最後の一メートル二十で止まった。一メートルに下げて次に一メートル二十を飛ばした時、落下しまいとウルトラCのひねりを入れた。このひねりのためか軽い跛行が見られた。

五月十七日、対酪農戦トンネル障碍で失権。人間の姿勢の悪さを指摘される。

五月下旬、後肢の踏み込みが急に悪くなり三十一日の道白馬を棄権する。

六月中旬の七帝の折、千葉先輩よりいろいろな有益な話を聞く。七月十二日、中央競馬の仕事で高山氏が来札したが、部員のほとんどは高山さんを無視していた。こう云う雰囲気反発し、デコで障碍飛越の、ルイシーで馬場馬術の指導をしてもらった。

この時の障碍の指導は僕にとってまったく貴重なものだった。

七月下旬、総合の馬場と一メートル半の経路を廻った。馬場運動を軽視して来た事を後悔し、非常なあせりを感じる。この馬場運動がよい準備運動になったのだろう、障碍の方は満足のいくものだった。特に連続障碍がすばらしい。週二、三回行なう経路もほとんど満点で帰って来る。

八月にはいり、軽い跛行をし、腹帯擦傷、発情と調子をくずす。八月十九日、あせりがあった。試合場の馴致をしようと競馬場に行き、水濠で反抗され、カッとなり馬とひどく喧嘩をしてしまった。そして左前肢の骨瘤の部分に怪我をさせてしまった。大失と云えよう。しかしここで様々な教訓を得た。のんびりしていたなら、絶対得られなかったであろう事を。ごく当り前の事だが、次のような事を、この日の経験から得た。

絶対無理をするな。準備運動を充分に行なえ。思い切った事は普段の練習の調子の良い時に行なうべきで試合直前には少しでも危険な事やかわった事はするな。馴致は非常に大切である。怪我にはすぎるほどの注意をしろ。口が堅い馬はほかにすぐれた所があっても良い馬とは云えない。

八月二十三日、北日本学生馬術大会第一日目、中障碍出場。最も気合のはいった試合であり、全力を尽くしたものであろう。北大の先に出た馬が惜しい所まで行きながら次々に失権する。ほかの馬の分まで頑張るぞと云う気持と、これで良い成績なら全日本学生に行けるのだと云う気持と二つの気持で体の奥底から力が湧いて来た。

一落で五位。

翌二十四日の総合ステイブルは多分一生忘れられないものと

なろう。

準備運動不足から第一で逃げられ大いにあせる。

はっちゃきになり脚を使い第一を飛んだが馬をおさえる事が出来ず馬体を伸ばし切ったまま第二に向い踏み切り地点より前で気合を入れてしまい飛びそこない人馬転。

デコは目の上と肩と前肢の三個所に怪我をし、人間も顔に三個所の傷をつくり、メガネもわれた。

雨が降っていたためキュロットも泥だらけになり際もまったくしまらず脚もほとんど使えなかった。

馬も人間も障碍が恐ろしくなり、一回二回と逃げられる。

人間が少しでも大きいと感じた障碍はかならず逃げる。

三回目に障碍に向かって行く時は、ここで逃げられるぐらいなら死んだ方が良いと思った。

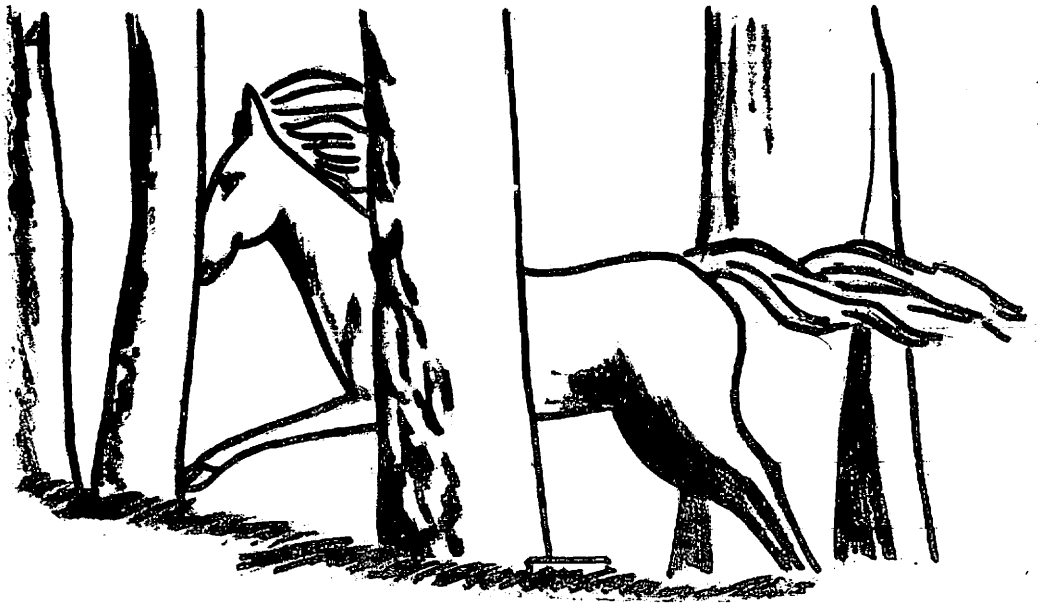
自分なんかどうなっても良い、すべてこの障碍を越えデコをゴールまでと思っていた。

僕の気持が通じたのか、ゴールは出来たが今もって信じられないほどである。

中障の成績で全日本の出場権を得たので馬の怪我の事を考え余力は棄権した。

原稿を書くのが遅れて部報編集委員に迷惑をかけた理由は、これ以降の一番書かねばならない事が書きたくなかったからだ。

やはりどうしても書きたくない。



—小さな青い馬—

先輩寄稿

馬術部以前

第四代部長 太秦 康光

父が職業軍人だったので家に馬がいた。五、六才頃の話だが、私の姿が見えないので母が探すと、いつの間にか厩舎に潜り込んで、馬の腹の下で遊んでいたなどということもあつたらしい。こんなわけで、馬には小さい時から特別の親しみを持っていたようである。

東大に入つたのが大正八年。当時大学は九月が学年始めだつたから、翌年七月に最初の夏休みが来る。その休暇前に大学の掲示板を見ると、馬術練習募集の貼紙が出ている。早速学生課へ行つて申込みの手続きをやり、夏休みの練習に参加することになった。幼時いたずらに馬の背に乗せて貰つたことはあつたが、長靴をはいて正式に馬上の人となつたのはこの時が始めてであつた。

学生仲間で馬乗りが始まつたのは大正の初期かと思う。当時四六会というのがあつたが、それは大正四一六年に始まつたという意味である。医学士の仲間に乗馬熱が高まり、医学士乗馬会というのもできた。そして東大生が正規の馬術練習を始めたのがやはり大正四年である。ただし馬術部という名前はまだなかつた。

東大法学部に上杉慎吉という憲法の教授があり、この先生が陸軍大学校で講義をしていた。陸大は青山一丁目であり、参謀要員

の将校学生が戦術などの勉強をする所で、百二・三十頭の乗馬も飼育されていた。夏休みになると、将校学生達は方々の連隊に派遣されて現地研修をやるので、馬が失業して終り。もち論馬丁はたく山いたが、百何十頭の馬運動は大変である。そこで一つ学生に乘らしてみたらという話が、上杉先生と陸大当局との間に出土らしい。これが東大生の夏期馬術練習のきっかけのようである。

当時学校で馬術部があつたのは多分学習院だけであろう。そこでは打球までやっていた。京大は大正天皇の即位式の時近衛騎兵の馬繋場となり、その馬が何頭か大学に残されてそれに学生が乗るようになったという話だが、正式に馬術部ができたのがいつかは覚えていない。

私は夏期練習、日曜練習をその後も続け、大学を出た大正十一年の募騎兵第十五連隊に入隊したが、学生時代の練習のお蔭で馬乗りだけはそう苦労しなかつた。兵役をすますと又大学に戻り、陸大の練習も昭和三年留学するまで続けた。今度はよく教官の代行もさせられたので、渡米の直前には送別の意味で多摩川二子の渡まで大速乗会をやつてもらつたのも忘れられぬ思い出である。

当時の夏期練習には新班と旧班があり、両方とも学生だけではない。それぞれに学生班と学士班があり、新班というのは全くの初心者だけの二十人くらいのグループ。従つて助手だろうが教授だろうが始めて馬に乗る連中は新兵扱いで、屁びり腰で馬の首に嚙りつき、教官にどなりつけられて泣面をする背広の学士様もいたのである。

手許に資料がないのではっきりしたことは分らないが、やがて正式に馬術部ができ、よその大学や高校にも馬術部が生れ、帝大

戦やらインターハイその他の競技会が盛んに行われるようになって。私が正式に乗り出したのが前に書いたように大正九年だから、本年で満五十年になる。皆様のお力添えて馬術功労者として表彰の栄に浴し感謝感激の外ないが、往時を顧みるとまことに感慨無量である。

(昭和四五・一一・一八記)

これからの乗馬に望みたいもの

昭和六年卒 間 克 一

予科柔道部の選手生活を終り、畜産二部に進学したとき馬術部に入部した。大学農場にも乗馬がつけられていたが乗用向きでなかった。月寒の歩兵連隊まで歩いて練習に行ったものだ。途中から飛び入りで入部したので、上手な連中に混じっていきなり障碍や野外騎乗に加わり、幾度も落馬しかけてはそれでも皆の後について行ったものである。屋根勝ちで肢の短かいおよそ乗馬タイプにはほど遠い私も、柔道で鍛えた連道神経が物を云って、案外上達が早かったようである。

そんなことで卒業して、農林省に入ってから、種馬牧場に勤務することになり、私の馬との生活が始まった。それから四十余年引続いて馬との悪縁がたちきれず、今でも斜陽となった馬産にとりくみ、孤軍奮斗を余儀なくされている。

かつて華やかだった日本の馬産も、今ではすっかり変わってしまい、戦前一五〇万頭をほこった馬数も、今では二〇万頭を割るまでに減少してしまっただ。競馬はいやが上にも隆盛をきわめている

反面、一般農用馬は年々凋落をつづけ、食肉兼用としてその余命を保っているに過ぎない現況である。

軍用目的を失なった戦後の馬産の中で、最も早く姿を消したのは乗用馬である。当時の情勢からは止むを得ないものもあつたが、繁殖資源までも失なってしまったことはいかにも残念である。

欧米でも馬の頭数は減ってきているが、乗馬だけは依然として盛んで、婦人や子供までが広く乗馬を楽しんでいる姿はうらやましい風景である。特に米国では一時三〇〇万頭まで減った馬が、最近六〇〇万頭以上に増えてきている。これは乗馬やポニー等レジャー・ホースが多くなってきたためである。

さきにフランスの元馬政局長であつたサンマルタン氏が来日したとき、これだけ経済成長をとげた日本に乗馬が皆無にひとしいのには驚いたと云っていた。又日本はゴルフ人口がこれだけ増えているのに、乗馬人口が一向にのびないのはどうしたことかとびっくりしていた。欧米人の国民性から見れば、これは理解に苦しむことの様である。

オリンピック大会の日本馬術選手の惨敗ぶりは記憶に新しく、ロスアンゼルス大会における西中尉の活躍を思い、改めて日本の乗馬層の薄さを痛感し、大いに反省させられるものがあった。

昔はどここの軍隊にも馬がおり、愛好者は乗馬を楽しむ場所にめぐまれていた。又農村でも農耕のかたわら祭典競馬が所々に行われて一般大衆も乗馬を楽しむ機会が多かつた。今では学生乗馬か、数少ない乗馬クラブで特定の人以外は、一般大衆には乗りたくとも施設や場所がとざされているのが現状である。

これからの乗馬は健全なスポーツとして発展させることは勿論

であるが、老若男女を問わず家族ぐるみ楽しめる大衆のレジャーとして、もっと愛好者の層を厚くしてゆくべきであって、これのために一般大衆が、誰でもたやすく乗馬を楽しめる施設と場所とが与えられなければならないと思う。

最近東京の若い婦人層で乗馬をやりたい希望者が山ほどあり、私のところにもしばしば問合せてくるが、乗る所を世話するのに困る程である。乗馬クラブも特定のところ以外は経営が成り立たず、既存のものも会員制で一般の人には手のとどかないものとなっている。

乗馬を普及させるには先づもって学生乗馬をもっと盛んにするのが近路である。どこの学校でも乗馬を持つことが大変な様であるが、馬の導入や管理に手厚い助成を行い、もっと余裕のある乗馬をやらせるべきであると思う。

学生諸君も学校を出て社会人になるとすぐに乗馬をやめてしまふものが多いようであるが、これでは普及には何の役にも立たない。

乗馬の愛好者をふやすには子供の中から乗馬に楽しむ場所を与えるべきで、それには遊園等でホニーと遊ばせ、馬に楽しむ機会をつくるべきである。最近観光地に相当乗馬が入っているようであるが、ここでは人を馬の背にのせる程度で、野外乗馬を楽しむまでにもってゆきたいものである。又農村青年のレジャーを楽しむ手段として、農村乗馬の復活をはかるべきである。

日本の国土から消えんとする馬を、これ以上の減少からくいとめるためには、乗馬を盛んにする以外に方策はないと思うし、又これからはどんどん伸びてゆくものと期待している。

北大馬術部も歴史は古くなり、最近の活躍ぶりもしばしば耳にしているが、まだ充分とまではいっていない様である。馬産地北海道を背景とする恵まれた環境を活して、全国学生馬術界に覇をとなえるまでに発展して貰いたいものである。

同好会眼りを醒ますの覚え書

同好会幹事

雪解けとともに、札幌の街にも春の息吹が感じられます。

御地の春はどのような粧をこらしておりますか。諸先輩各位におかれましては多方面にわたり御活躍のことと推察申し上げます。さて、有名無実になっておりました乗馬同好会の再建を計画致しておりますので、部報の紙面にて御報告申し上げます。

乗馬同好会は、北大教職員、札幌在住の卒業生を中心として、週二回（土曜日・日曜日）騎乗を行い、現役部員との交誼に努め、馬事振興の一役を担うことを目的としております。

在札の卒業生を中心としまして、昨年来、数回の会合を開き、本年四月より従来の団体として活躍することに決定致しました。会則等、未決定の事項も多く、今後、徐々に決定してゆくつもりであります。

過日、岡田光夫先宅宅（昭和十六年卒）にて、暫定的に次の点を確認致しました。

- 一、年間会費一名千円とする
- 一、騎乗の鞍数に応じて、一回百円を徴収する
- 一、同好会の事務費を除いて残金は部へ納入し、経済的援助とする

尚、四月中旬、同好会の発会式を行います。

今後の同好会の発展に際し、諸先輩、現役諸君の暖かい御支援、

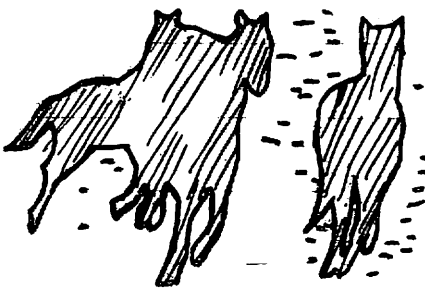
御協力をお願い致します。

事務局は次のように決定致しております。

札幌市北九条西九丁目 北海道大学農学部内

半沢教授気付

北大乗馬同好会



部員プロフィール

続々 // 他人の顔 //

神様の巻

今井敏郎

札幌南校 理学部化学科

ダンディという言葉がピッタリとする人。百聞は一見にしかず。まあ見てやってください。その彼もちと理屈っぽいのがたまに傷。いろいろと口やかましいんだ。といっても逆にとってみればそれだけクラブ想いでもあるわけだが。彼はクラブにとっては不可欠な人。北武の手入れには皆手をやいてるんだ。あの前脚の動きと後脚のまわし蹴り、そんな北武を手の内に入れてる彼。見習うべきところあるよ。

大見太一

小倉西校 文学部文学科

飄々としてると云うか、のんびりしていると云うか……? 血気盛んな九州男子も北の大自然の中に融け込んで三年や。と心の偉大さを得た様だ。部のマネージャーの任も黙々とやり抜いてくれることだろう。コンバに於ける空前絶後の食欲は、我々弱き一年目にとって恐怖の的であるが豪快に飲み食った後の×××節は絶品であるとの評高い。

梶村哲世

大阪天王寺高 獣医学部

我が馬術部を担うキャプテンとして、今年忙しい

榊井 明

大阪浪速高 工学部鉱山工学科

年になりそう。それに加えて、今年はダンスもものにしようとしている。曰く、ダンパーは女の子が多くて、男はモテてモテてしゃうないちゅうやんか、と。馬上のキリッとした姿は女子部員憧れのマト。北雄の一目を置いている。

あの普段にこにこした顔の底には真摯のものが感じられる。大変な努力家である。酒はあまり飲まないそうだが飲むとやたら人を投げ飛ばしたくなるのか小生もバツタと投げつけられた次第。

榊井兄、酒はなげても人なげるな (字余り)

鬼の巻

大沢芳夫

愛知県立旭丘高 文学部文学科

パチンコの本場名古屋の出身。名門愛知一中から名門北大馬術部に入り現在に至る。お気に入り北武のチーフとなり、こまめに世話をやいている。言葉には、ずいぶん気を使っているが、時折、純粹な名古屋弁が飛び出す。

小島京介

群馬高崎高 獣医学部

料理が得意で、素敵においしいミソ汁を作る。獣医学部へ進み、肉が手に入りやすくな。たから料理の種類も増すことだろう。

武石悟郎

札幌南高 獣医学部

非常に真面目な感じのする好男子で、大学生として

もまともな方である。非常に練習熱心でもあり遠い道程を自転車でヨットヨットと通っている。乗っている姿が魅力的なのか修学旅行の女学生に迫っかけられたりして、ウラヤマシイネ。ファイトの点でも非・否？のつけ様がなくコンバの席でも皆の迷惑をよそに「再度挑戦」をくり返す。正しく挑戦者チャレンジャーの名をほしいままにする所謂である。

田崎拓昭

鹿児島鶴丸高 獣医学部

非常にまじめな人で、時折怒りが爆発する。そんな彼には、未だ少しあどけなさが残る所がないではない。彼の下宿には鹿児島のみやげがいつもあるようだから一度行くといいよ。

近森憲助

高知県立土佐高

あの体から発せられる歌声はベリーグッド！コンバの時には絶対見逃がせない。オペラ歌手に転向した方がいと思われくらい。南国土佐人らしく外見中味とも暖かみがある。当番表わりふり者で大分怨みを持った男でもある。がそれを外に出さないのが又いい。今後もいろんな面でがんばってや。

西村正二郎

山口県立宇部高

偏熱狂的情熱家。映画並女性に対する凝り様け一徹なものがある。将来の日本映画界は唯々彼の肩に掛っているそうだが自分の面倒を見きれない処がたまたに傷で、ますます一年目との関係を親密にしつつある。

前田和子

旭川北高 法学部法律学科

「小巻サン」の大ファンで恍惚としてテレビに見入っているが、「どうして僕にもてないんでしょ」なんて喚く気の弱いところもある人間的な彼である。榊井氏の後継者として北源を可愛がっている。

山下秀樹

東京教育大付属駒馬高 法学部法律学科

あのやさしい顔からは想像を絶する彼女の芯の強さ。去年の夏から今年にかけての練習の熱心ぶりには男子部員圧倒されました。やはり北国の女性だなあと思いました。そんな彼女ももう年頃ですネ。いい人でも見つけているんな面でがんばってほしいですネ。(それとも秘かにもういてけるのかを)

横山豊昭

大橋巨泉か山下秀樹かと言われるくらいの競馬狂。それでいてもうかつちよるかな。体育会役員でもありなかなか多忙な人である。司法試験めざして法律の勉強にも余念がない。モサモサした野性味の中に都会らしさがあるややこやしさ。人間研究にはいいモデルです。

人間の巻

馬術部にはふさわしい人である。あの落ちついたというよりおっとりした態度、そして彼の顔はどことなく馬に似てるからである。又彼はコンバには欠かせない人である。だって、あの調子ハズレの歌をいやというほど聞かせてくれるんだから。

北越龍三

札幌西高 理類

人がいいというか。悲しい顔をみたことない。いつもにっこりと筋肉がゆるみっぱなし。たまにはパンツときめてほしいネ。気分がめいる時などいい相談相手になってくれるかもしれない。そんな彼も人には言えぬ苦しいを秘めているかもよ。

柴原寿行

兵庫豊岡高 理類

もっさりしている連中の多い当部には、稀なスマイルな御仁で、動物好きという点に於いても他の部員に優るとも劣らない。だって、「ハムスター」なんてのを可愛がっているんですよ。変った御仁で、合宿では、木を倒すことのみ執念を燃やしたり、変な女の子の相手をしたり……。慈善家なんだって？……。又、コンバをしらけさすことでも定評があった。ところが皆さん、一年目主催コンバではイメージチェンジに成功、コンバを大いに盛り上げた彼であります。

鈴木秀次郎 静岡県磐田南高 文類

文学的雰囲気を感じさせる男。ウォッカをひっかけ時折あやしげな露語が、藤村の一節が飛び出す。そんな彼は五木寛之を愛し、孤独を愛し、時折悟りきった事を言う。秀次郎、荒野をめざすのである。

中川 元

札幌西高 農学部農業生物学科

2年になってフラァーと入ってきた変わり種であるが模範的な馬術部員である。落ちついて具想的な容態

南部孝一

福岡県八幡高 理類

け、何処か高橋和己を連想させる(投手やあらへんで)しかし見ると知るとは大違いとは彼のことで、日く、かわいい女の子が入ってきたらかわいがってやろうネ。かわいい男の子でもいいネ。

則近 彰

岡山県西大寺高 文類

妹思いの彼。帰省のときかわいい妹にはなにやら買っていた。彼と小生。クラスは同じであるがクラスで顔を合わすのは稀である。乗馬服をいつもきちんとたたんでいる几帳面さがあるが、授業の方もきちんと顔出してくれよな。(あまり人のことは言えないが。)

平林正二

愛知県立刈谷高 文類

人間の重さは体重の重さとは無関係であることを身をもって示している好男子。セブンスター愛煙家であるがそれもちと我慢して体力増進に努めている。知多の清らかな浜岡に育ったせいかわ伸び伸びとした人間らしさを感じさせる。又度胸のよさも人に負けず、コンバの席では皆の日を楽しませてくれる。

福田イネ

岩手県福岡高 理類

現代女性って感じ。背の高さにもそれかわかるでしょう。人間味があるというかとても親切な人です。それが長所でもあり欠点でもあるって感じですよ。自分でぐいぐいやっていくというよりは、男性にリードされてついてゆくそんなふうに見えますネ。一言でいって動物好きに悪人なしそんな人です。

船水周子

青森県弘前高 文類

後から入ってきて揃いの一年生男子部員をゴボウ抜き。あの娘 いい娘だ気立てのいい娘……”という”リングの歌”を思い出させるお嬢さん。でもおつかない、ウーマンリヴの姉ちゃんじゃない。試験レポートに頭を悩ますこともあれば、恋愛小説の向うをはって恋もするお嬢さんである。最下、デコが大変御気に入る様で、毎朝手入れに余念がない。ハッテル！なんて言う奴もいるが。

松岡正明

福岡県欽塚高 理類

馬術部きってのいい男。話し好きを彼は独りでしゃべりまくり、見ぶり手ぶりの大熱演である。酒が強いのか弱いのか、いまだわからないが”いやだね””あら。”といいながらウィスキーをぐいぐいやるところを見るとやはり強いのだろう。彼といるとあきることを知らない。そんな彼もひとり孤情を染しみたいのであろう。持前のきれいな好きから寮を出て下宿生活にいそしんでいる。

山内泰雄

大阪府立高津高 文類

貴公子。て言葉がピッタリ。心理学にほれてなかなかの読書家でいつもアウトサイダーうんぬんをひもといている。大阪人らしく人なっこい。物を頼めばまずいやとはいわぬ性格だ。いろいろ議論しあうのも面白いかもしれぬ。もう一つバシッと決まるところがあれば文句のつけようのないいい男さ。

安井 克

兵庫長田高 理類

夜の神戸の案内は俺にまかせると自信満々。自分では繊細だと公言しているが、単細胞でお人よしな行動が目立つ。人がよく好かれていいるから、下宿は同級生のたまり場となっている。小樽が気に入っている。(その理由は?)

安井富美子

静岡県立葎山高 理類

女三人よればかましというがうちのクラブはいいお嬢さん揃いか、言葉数が少ない。彼女もそのひとと。霊峰富士から流れる清水でうぶ湯をつかった。暖かいところにすぎたせいかちとのんびり屋って感じがするネ。早くいい人でも見つけてよき指導を得てください。(おっと他人のことより自分が指導を受ける人捜さなくちゃ)

松好秀章

大阪府立四条綴高 理類

モサモサした髪の毛。人間外見じゃない中味だ。口数は少ないがバシッときめる男って感じ。姿だけ見るとどこかの山奥から来たような野性感があるが生粋の浪遠っ子。関西弁では梶村兄と分けあっている。最近、ギターにこりだし、二万三千円もするフォークギターを購入したほど。なかなかセンスの持ち主かね。

麻雀
クラブ みず木

ストーブが程よく燃えて居ます。麻雀
のONシーズンです。

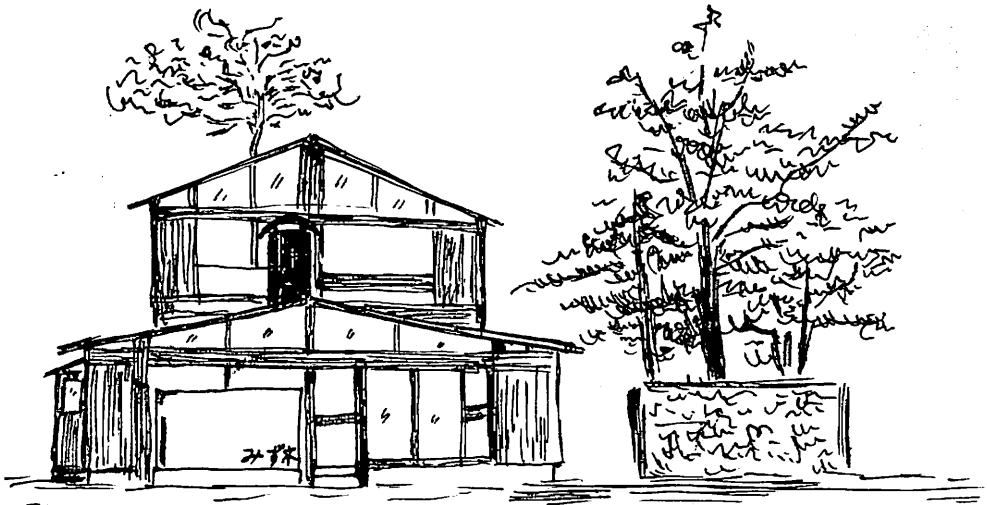
予約室小室、卓も相当数御座います。

駐車場も御座います。

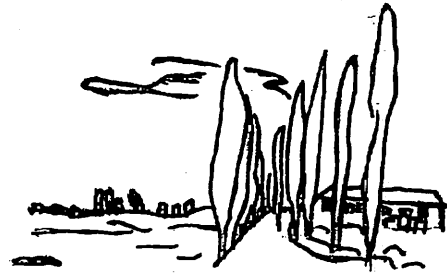
御待申して居ます。

札幌北6条西6丁目2番地北大生協東隣り

TEL 711~5322



迷作展



このごろ思うよしなしごと

二年目 近藤憲助

この世の中にはいろいろなものがある。

美しいもの。きたないもの。よいもの。悪いもの。

よいものというのは、私がいいなあと感じるすべてのもの。

これは当然といえば、当然かもしれないけれど、これから色々あけるよいものの中には、読者のみなさんが、こんなものがよいなんてと意外に思われるものがあると思っております。

要するにその人自身のセンスの問題であるという事です。

よいものと言えば、月並なものは、言ってもおもしろくないからちょっと変ってるものを言えば、この前帰省の折、夜行の中でとろとろ眠ってちょっと目をあけたら、前にすわっていた女の子の寝顔がすごくあどけなくっていいなあと思った。この場合には、そう美人でもなければ、十六才位から二二・三位までの女の子だつたとしてもかわいく見える。昔から女性が一番美しく見える時は、寝起きの時のようだ。パジャマなんか着てもいいんだけど、もっといいのはやはり、着物だろうな。それできちんと正座しないで、ちょっとひざをくずして、ほつれ毛が二、三本で少しとろんとまどろんでいる感じ、そんな光景を思い浮かべると、そんな美人じゃなくても、そこはかとない色気が感じられるのではないだろうか。

それから男女二人が歩きながら、女性の方が、男性の方に笑いかけているなんてのもすごくいい感じ、じゃないかな。

美しいもの。

人の心。愛するということ。

それに赤ちゃん。赤ちゃんについて次のような詩を作った。

小さな生命よ

汝は父と母の愛の分身なり

父と母の喜び

君が生まれる前、

君はまだ自然の一部であった。

もう君は感じているだろう。

大地のはげます声を

大地は君にあらゆる可能性を付与し、

君はその可能性を秘めて

我々の仲間となった。

君はこれからゆっくりと、しかし確実に

背き大空に向かって飛躍するのだ。

そして君がまた自然の一部となるまで、

あらん限り、飛びつづけるのだ。

いやなもの

人の心、人間同志の憎しみ、恨み、つらみ。

傲慢な大人（傲慢な大人とは、自分がこれまで生きてきた、

ということだけで、それを自慢して、「近ごろの若い奴は

……」

なんていう奴

わからぬもの

女心と秋の空、（これは非常に月並だけれども、まことに

そのとおりという感がある。）

楽しいこと。

なんだろうネ。

帰省して、郷里の駅のホームに立った時

郷里の駅につく五分位前、そろそろ見慣れた風景が見え出し

た時かな。

愛ということについて。

少し前私は、美しいものというところで、「愛するということ。」

と言いましたが、しかし愛するということは、それは苦しいものであり、また反面それなりに楽しいことでもあると思うのです。それが人間同志の愛情というものでないでしょうか。愛とは何かなどという定義はありません。またあったとすれば、我々にとってそれは不幸な事ではないでしょうか。何故なら、我々は今度はその形式に頼ろうとするでしょうか。愛の定義は個人で作ればいいと思うのです。それは自己満足でも何でもないと思うのです。

我々色々なつながりをもって生きています。そして社会とはそういう個人の人間のつながりを一つの単位として構成されています。その中で現在私にとってもっとも重要なつながりと言えば、それは、友情と女性に対する愛情ということでしょう。我々が友と結びつく時、お互いに全く違った生活環境の中で、成長し、又それによって、価値観も全く違っていているもの同志が何故お互いに惹かれるのか。それは具体的にはどうにも説明のできない神秘的なものが惹き合うのでしょうか。私には判らないのです。しかしとにかく、全くの偶然というか、神の摂理とでもいうのでしょうか。そう言ったものによって、出会った二人は、お互いに惹き合うと同時に、相手の心に直接触れてみたいと思うでしょう。そして、それは私に絶対不可能だと思のです。しかしその欲求というのは、それを乗り越えようとさせるのです。そして全く異なった性質を持った個と個が激しくそこでぶつかりあいます。そうした激しい衝突によって我々はお互いに人間として成長していくのではないのでしょうか。

そして男女の愛の場合には、そのような事が起ってきます。そし

て彼ら二人は、自然に手を握り合い、口唇を合わせ、肌を合わせ
る。その時、人間とはよくできているもので、素晴らしい快感を二
人は味わうでしょう。そして、この行為は、心の触れ合いができ
ないのなら、せめて肉体だけでもという、全く切ないものである
が故に、それだけ二人はお互いを激しく求めあうのではないでし
ょうか。うら若き乙女は、ブラトニックな愛というものを最上と
し、セックスというものを、卑下するけれども、そんなものでけ
ないと思うし、それに伴う快感というものは、全く二次的なもの
であると思うのです。恋人達は、肉体的な一帯観にすぎり、そう
することによって、よりお互いの愛を確めあおうとするのではな
いでしょうか。

追記

すべて判っているような顔をして書いているけれど、実は何も
判らないのです。だけどこれから、こんな愛をしてみたいし、ま
たこのように生きて行きたいと思うのです。特に後半の愛について
云々のところは残念ながら、経験したことないもんだから、全く
判らないけれど、多分そんなに間違ってもいらないと思うのですが、
経験者のみなさんいかがでしょうか。



縦 走 路

小 島 京 介

幕営地に朝がやってきた。
静かな朝であった。

太陽は大きくその姿を現わしていた。
遙かなる峰々の間を白い雲海が広がっていた。

白い雪溪が太陽の光に輝いていた。

初々しい光の中を歩いていきました。

お花畑を通り、這松の間をぬけ、歩いてきました。

お花畑の花は歓迎するかのようにはほえんでいた。

歩いていきました。

その時、日光が不安そうに輝きだしていました。

いつのまにか太陽を包むかのように黒い雲が広がっていきました。

雨が降ってきました。

這松を濡していきました。

石楠花を、名もしらない路傍の草を濡していきました。

私を濡していきました。

私の体内に浸みこんできました。

神経通し、血管を通し、心の中に浸みこんできました。

滅入ってきました。

足取りは重くなりました。

私は叫びました。

友よ！昨日、今日のつき合いじやないじやないか！

そんなにいじめなくていいじゃないか！

なぜぼくのところだけそんなに降らせるのか！

なぜぼくのところだけ……

頼む！やめてくれ！

雨はやんだ。

しかし、心は晴れなかった。

足取りも重かった。

黄色いエゾキンバイの花は恐れるかのように首を振り、

逃げ出そうとしている。

こんな恰好してたって悪人じゃない。

ドロボウでもないさ。

ただ、ドロとホコリにまみれ、ものに憑れたように

歩いているだけさ。

それなのに……

急は重かった。

草の上に腰をおろしました。

チヨロチヨロと涌きでる泉で喉をうるおしました。

すがすがしい気分になってきました。

泉の中にキラッと光るものを感じました。

雲が切れ太陽がまた顔をだしていました。

さあ、もうひとがんばりだ。

ザックを背負うと、足取りも軽ろやかに歩きだしました。

大きく雲が切れ、コバルト色の空が誇らしげに

その肌を見せていました。

太陽はさらに一層元気よく輝いていました。

径は砂礫地にかかっていた。

這松もナナカマドももうはえてけいなかった。

薄桃色のコマクサが淋しく頭を垂していた。

エゾツツジの花が身体からだの倍もあるような真赤な花をつけていた。

径は切り立った尾根の上を速慮がちに

鞍部コルから頂ヒタへとつづいていた。

あの頂を越えれば、長々と横になることができるのだ。

暖い飯がたべれるのだ。

そう考えると急に腹がへってきた。

時計を見た。

1時だった。

可憐な花をよけるように腰をおろしました。

味気ない乾パンをかじりながら、空を見上げました。

雲が流れていきました。

M子の面影が脳裏に浮び、消えていきました。

楽しかった数々が浮び、消えていきました。

雲が流れていきました。

乾パンを投げ捨て、歩きだしました。

ふたたび径は這松帯にかかりました。

這松の枝をかき分け歩いていきました。

どこからともなくシマリスがあらわれて、

話しかけてきました。

そんなに大きな荷物を背負って何処に行くのかい？

そんなに苦しんでまでもいくのかい？

そんなにしてまででもいく価値のある所かい？

黙って歩きつづけました。

シマリスはなおも話しかけてきました。

そんなことしなくたって生きていけるのに、バカだなあ。

黙って歩きつづけました。

何処に行くといってもあてなんかないさ。

その日その日が目的さ。

明日生きていたらそれでいいのさ。

価値なんて関係ないさ。

心につぶやきました。

小径は勾配を増してきました。

汗がほとばしりでてきました。

苦しさをこらえるように、喘ぎながら登っていきました。

ガレ場を越え、岩場を通り登っていきました。

三角点に立ちました。

汗をふきました。

充実した気持ちになりました。

明日・明後日の峰々が連らなり、地獄にもとどきそうな沢々が

目に入ってきました。

這松の蔭にある幕営地が目に入りました。

下りていきました。

幕営地に着きました。

天幕を張りました。

手の切れるような雪溪の水でほこりまみれた顔を

洗いました。

新しい活力が湧いてくるような気がしました。

長い夏の日が輝き、夜の帳がおりようとしていました。

太陽は明日もまた元気な姿を見せるかのように

赤い大きな顔でほほえんでいました。

夕日が山陰に沈むと静寂が襲ってきました。

冷気が襲ってきました。

寝袋の中で横になりました。

一日の出来事が頭に浮かびました。

疲労困憊であったが、何故か寝れなかった。

天幕から外にでました。

満天の星が輝いていました。

星が可憐な高山植物のようであった。

チングルマ・キンバイソウ・コマクサ・コザクラ・ツガザクラ

ウルップソウ・シオガマ・シヤクナゲ・クロユリ、

黒い空に輝しく、自信ありそうに、咲いていた。

カシオペアが招くように輝いていた。

明日は何処でこの星を見ることができのだろうか。

明日は何処でこのような気持ちになれるのだろうか。

明日はたして生きているのだろうか。

明日は・・・

空に星が流れていきました。

明日を象徴するかのように。

品川まで

鈴木 秀二郎

十月二十二日

青白い水銀灯の光線の中で、貨車は出発を待っていた。時おり貨車接続の音にあたり、静けさは破られるが、すぐにまたもの静けさにもどる。遠くに汽笛の音が聞こえた。夜の駅は、昼間騒がしかっただけによけいに、さみしい。定刻零時、貨車は桑園駅を離れた。

十月二十三日

いつも何か考えているような浅い眠りだった。デコ達が鼻をブルブルとふるわせると、しぶきが顔にかかる。それにデコのやつ時々よだれを垂らす。顔をグッと伸ばすと寝ているボクの顔のちよろど真上に来るのである。ボクだっていつもキリッと口をむすんで眠っているとは限らない。

目をさますと貨車は海岸に沿って走っていた。とある小さな駅に停車した。集乳カンを持ち、急いで水を吸みに行った。あたりはもやにつつまれ、小さな家が体を寄せ合うように建ち並び、その向こうにおだやかな海が広がっていた。

昼を少しまわった頃、五陵閣駅に着く。出発は夕方になると言う。何もすることがないから昼寝をする。夕方、五時半過ぎ、貨物専用埠頭から船に積み込む。すぐ後ろの貨車には乳牛がいっぱ

い乗っていた。出港後、しばらくして甲板に出るとひんやりとした夜気が気持ちよく、遠くに函館の夜景がすばらしかった。それがユラユラゆれている。「うん。船がゆれているんだな」とつぶやき眺めてみるがでうも様子がおかしい。それが、イカを探るためであろうか、漁火であると気づいたのはしばらくたってからであった。函館の街のあたりは、もうずっと後ろに遠のいていた。

背森に着いた貨車は、すぐに操作場のほうにまわされた。ここから提さんは先に東京に行くことになる。提さんはこの貨車に乗っていないことになっているから、見つかると思われない。ここから「ウン、このバジャマーのほうがいいな」と白っぽいジャンパーの上に黒いジャンパーを重ね、右を見、左を見、さらに右を見て人がいないのをたしかめると、ヒラリと貨車から飛び下りた。線路を横切ると、道が分かれていたが躊躇なく左を選び音もなく闇の中へ消えて行った。「逃亡者」みたいでカッコイイや」と思いつつも心細く、消えていったあたりを眺めていると、行った道が行き止まりであったのであろうか、途中までひっ返し、こんどは右の道を行った。

デコのやつ提さんがいなくなると急に悪さをするようになる。夜中飼桶のふちをカリカリ唸んで眠れやしない。あいつはいつ眠るのかと思う。

十月二十四日

まだ明けやらぬ背森を、ガチャン、ガチャン、ピーとけたたましい音をたてて貨車は出発した。しだいに空が白んで来る。戸の

すきまから顔を出すと、朝の風が気持ちいい。両側にただらかな山がつづく。リンゴ園があちこちに見える。この辺で臨時停車でもすれば、あのリンゴを二つ三ついただくのにと思うが、貨車は青森森を出てから一度も止まることなく走りつづけている。

「まだあげ初めし前髪のエレもとにみえしとき……」とうたつたリンゴは何かしらと、ポケッと外を見ながら考える。「何かなあ。デリシャス……?……かな?」

やがて、男心をそそるような容姿でそびえる岩手山が右手に見えてくる。

盛岡に九時四十分着。駅の人に聞くと十時四十五分発だということであつたから、十時三十分までに貨車にもどるということにして、ステーションデパートに行く。さしあたって必要なものは乾電池だけであつたから、それを買うともう用はなかつた。貨車の中に長時間閉じ込められていると、やたらにそこいらを歩きたくなり、あてもなく店内を歩くのが楽しい。買うあてもなく、その地方独特のみやげ品を見ながらブラブラすることも旅の楽しみの一つである。

十時三十分少し前に貨車の所にもどる。ホームの階段を上がつた時、ホームのはずれをゆっくり去っていった貨車が、ボク達が乗っているはずの貨車であつた。ボくらが、この汽車何時発ですかと聞いた時、駅の人ば、まさか貨車に乗るとは思わなかつたらしい、その向こう側に止まっていた客車の時間を教えてくれたことがわかる。貨車の発車は十時二十七分であつた。三人とも降りているから、馬達だけで行ってしまった。しかたがないから、特急はつかり2号でおっかける。臨時出費五百円也。

仙台につくとすぐ、貨車が着く長町駅までタクシーをとばす。もうとっくに昼を過ぎている。「いまごろお腹がへってあばれているんじゃないかしら。特にあのこは食べ物に關してうるさいから」なかなか貨車の着く時間にならない。駅員の人の休憩所待たせてもらう。誰も昼メシを食べようと言ひ出さない。三時近くなり貨車到着。デコ、ダイナナ、フロンティア皆おとなしくしていた。急いで昼餉をやる。「ワルイ、ワルイ」とデコにあやまる。ジローとぼくのほろを睨みニコッと笑ひ。それからやっとぼく達の昼メシとなる。

十月二十五日

いつ貨車が郡山を離れたか知らなかつた。まだうす暗い。七時少し前に白河に着く。何か飲み物でもとホームの売店に行く。向こうに城跡が見える。この近くに白河の関があるはずである。尋ねてみたいと前から思っている。卯の花の咲くころ愛する人と尋ねることができたらと楽しくなる。

小さなマンジュウがキッチンと箱に並べられて売っていた。売店の、人のよさそうなおバアさんに「これおいしいですか?」とアホな質問をする。そうしたら、そのマンジュウの由来を説明し、たいへんおいしいというのでさっそく買う。たいへん小さくて押し込めば口の中に十個は入る。味は取り立てて言うほどではない。九時近く黒磯着。ここでフロンティアをおろす。那須ハイランドで余生を送るという。

貨車の止まったすぐ近くに、親指の頭ほどの小さな柿がいつぱ

いなくていい。それを五六個はかり載き、他の人が渋柿だろうと言うのもかまわず口にほり込む。ものすごく渋く、すぐベッベとはき出す。柿が食べたたくて食べたんじゃない。渋柿だろうと言われたから食べたのさ。

今まであまりに止まらずに来たのに、黒磯からはやたらと止まる。時には駅でもない所に止まる。小山あたりでもう薄暗くなり、家路を急ぐ人々がホームに並んでいるのが見える。ふるさとの駅を思い出す。さらに駅から家までの道をたどってみる。

大官に着いたのは夜中の十一時近かった。

十月二十六日

いつ出発するともはつきりわからないまま、午前中をブラブラ過ごしていると、駅の人から出発は昼過ぎになることを聞かされる。マンガももうくり返し読んだし、何もすることがない。速くまでリングを買に行く。実がひきしまり、カリカリして素敵においしかった。何がおいしいといつて、まだ青いカリカチしたり、リングどおいしいものはない。

昼食をおえ自分達もエサを食べ始めると、ガチャンと大きな音を立てて動き始める。ダイナナはこんな時食べるのをよして警戒の態度を示すのに、わが北秀号は飼桶から顔を上げようともしな

5。
途中から山手線に入る。いつのまにか雨が降っている。少し開けた戸から外を見ると、駅のホームにいる人がものめずらしいようにこちらを見る。知っている人でもないかと目をさらのよう

にして見る。そうしていると「あいつは今ごろ何をしているのかナ」と考える。

新宿。渋谷。雨のそぼ降る新宿。小雨にけむる渋谷。「チエ、歌の文句だ」雨なんか嫌いだ。と言っても、今にも降りそうという空模様の時よりはずっと好き。日本には雨がよく似合う場所が三ヶ所しかない。象潟、内灘それに清水寺。

「ああ、品川だ」と思った刹那、札幌を発つてからの出来事が事細かに頭の中を過ぎった。

貨車は、灯り始めたネオンの間を、ゆっくりと操作場に近づきつつあった。



動物小話「少年とふくろう」

鳥賀好太

(柴原)

高校時代、私の住んでいた近くに一風変わった少年がいた。およそ小学五年生ぐらいかと思われるその少年は、幼い時から大の動物好きだった。動くものと見ればどんなに暑い日差しの中でもじつとその場に座り込んで、その生き物の様子を観察しているのであった。いつだったか、私が、昼過ぎに犬を連れて近くの堤防を散歩していた時、堤防下の草むらにその少年が、鼠を狙う猫のように草蔭にじつと身を潜め、身動き一つせずに何かをみつめているのが目に入った。私はその時咄嗟には彼が何のためにそのようにしているのか見当がつかなく、しばらく、彼のみている方向を目を凝らして見て、やつとその少年が何をしているのか理解することが出来た。彼は、堤防に穴を掘って巣をつくつている黄色つぼい色をしたいたちが、時々、穴から顔を出したりひっこめたりするのを固唾を飲んで見守っていたのである。その時から、何やら私にはその少年に対して愛着というのか、半ば好奇心のようなものを感じ始めたのである。以来、私はその少年に会う度ごとに声をかけて、「きょうは何かおもしろいものがいたかい？」と尋ねるようになった。

そういうふうに、会う度に声をかけてくる私に、親しみをおぼえたのか、その少年は、時々私のところへ遊びに来ては、今までに出会った動物の話しをして行くようになった。

いろいろと聞いてみて、改めて彼の動物好きなのに驚かされた。だいたい今住んでいるところは回りを自然に取り囲まれた小さな町で、一步町から出ると、そこにはありとあらゆる動物達が大自然の中で生き生きと生活を営んでいるのだった。そのような環境の中で育つた彼は、そういった動物達に限りない愛情を拘き、そして彼等と無言の対話を交わしてきたのである。

彼の中をついて出る動物の名は、キジ・カラス・シジュウカラ・ふくろう・野ウサギ・野ネズミ・トビ・イタチ・タヌキなどと一緒にあげればきりが無い程だった。彼は以上にあげたような野生の生き物の生態を観察し、あるいはそれらの雛や子を捨つてきて自分で飼つてみたり、またちやつかり卵などを失敬してきたりもした。

そういつたことについて、彼が、私に話して聞かせてくれた話の中から興味深い小話を皆さんに紹介しようと思えます。いろいろある中から一つだけしか御紹介出来ないのが残念ですが、その他はまたの機会にまわすことにします。

ふくろうは、鳥の中でも猛禽といつて小鳥とかネズミなどの小動物を襲つて食べる、言わばアフリカの動物界におけるライオンやヒョウなどの猛獣と同じで、かれら小動物にとつては恐るべき存在なのです。しかも、夜行性で主に夜間活動しては、小鳥などの寝込を襲うので相当の悪者のように言われています。これから紹介するのはそんなふくろうとこの少年が知恵比べをする話です。少年の話すのをそのまま文にしました。

それは、今思い出しても思わずふき出してしまいそうな話なのです。

今から何年前のことだつたでしょう。その年は何年ぶりかの大雪に見舞われ、普段そのあたりでは見かけることもないような小鳥までが、僕の家の裏に姿を見せるようになりました。考えてみると鳥たちも餌がなくて大変だつたんですね。いつもは山の奥の方で生活している鳥までが、恐い人間様のいる里にまで出てくるのですから。その小鳥達にとつて人間よりもつとこわいものにふくろうがあります。夜、小鳥が木の枝なんかに止まつて寝ている時を狙つて捕まえて食べてしまうのです。

普通、ふくろうはこんもりとしたお宮さんの森などに住んでいますが、その大雪の日に限つて僕が見たのは、いつもお宮さんの森で見かけるような小さいのではなくつと大きなふくろうだつたのです。

その日、いつものように学校から帰つてくるとすぐにかばんを放り出して、兄さんと裏のたんぼへこつとんのようすを見に行きました。(こつとんとは、このあたりの子供達が鳥を捕るために作るちよつとしたアイデア作品のことです。30cmぐらいな竹で、少し細工をして、鳥をふせることの出来るぐらいなかごをかけるれるようにします。そして、それに赤なんてんの実のような、鳥の好みそや餌をひつかけておくのです。鳥が少しでもその餌をつつこうものなら、はいコトンバサツという訳です。まあ早く言えば鼠取りみたいなのです。)その、僕達の仕掛けているこつとんは、僕の家の裏手からおよそ100m程離れたところにある泥の露出している田んぼの中にありました。冬の間の一番の楽しみは、

なんといつてもこの仕掛けているこつとんを見に行くことです。時には「早くかからないかな」などと思つて、雪の降りしきる中で一時間以上も隠れて待つていることもありすが、それでも寒いと思うことはほとんどありません。これが、僕達の、何物にも増して大きな楽しみを与えてくれるものだつたからです。学校から帰ると、何よりもまずこれを見にやつて来ます。もしかすると何か掛つているんじゃないだろうかといつも胸がわくわくです。それがふさがつていた時の喜びは、もうほんとに何とも言えないぐらいで、何が獲れているのかはつきり確かめせず、大声で「とれた、とれた。」と叫びながら家の中に駆け込んだこともありました。

その日はとても天気の良い日だつたにもかかわらず、もずでも小鳥達を追つ払つてしまつたのか、あたりにはスズメ一羽いませんでした。兄さんは、早速持つてきた双眼鏡で(実は、それは片方のレンズがかけていて、本当は肉眼で見ただ方が良く見えるのですが)いつもの如く付近を偵察し始めました。それでも、やはり何も見当りません。「ううむ、やつぱりだめか。」兄さんは氣取つてそっくりいいます。僕はおかしくなつてしまいました。「ほんとには良く見えないくせに……。」「それでは今度は僕が。」僕はそれよりもつと性能の良い双眼鏡を取り思いました。とはいつても、両手で輪を作つて双眼鏡のまねをしただけですが、兄の手前、そういうふうには恰好をつけなければ悪いと思つたからです。僕はそうして付近を見回し始めました。「ううむ、近辺は異状なし……。山の方は……、あつ、いた。」僕は、そこから三百mぐらいも離れたところの、真向いの小さな山の麓のところに、何かう

さぎのようなものがあるのに気がつきました。少し遠いので何であるのかはつきりわかりません。「兄さん、あれは一体何だろう。」と僕が兄に尋ねると、兄は「うさぎみたいだけどちよつと違いな。木の切り株じゃないのか。」とお互い何物であるか判断が下せません。うさぎであれば、もつとビヨンビヨン跳ねて常にじつとしないはずです。僕は、兄さんに「あそこまで見に行つて見ようよ。」としきりに誘うのですが、「わざわざ雪の深い中をあんなところまで行つて、もし木の株だつたら寒いだけだから。」といつて一向に行こうとしません。そこで、僕は持ち前の好奇心から、僕だけがそこへ見に行つて、何であるかわかれればこちらへ向つて合図して知らせることにしました。なんと言つても大雪ですからそこまで行くのは大変なことです。家と山との間には川が流れていますから、まず大回りをして橋を渡つて向う側に着きました。それから長靴の中に雪が入り込まないように持つてきた布を長靴の口のところにしつかりと巻きつけて、「ガボツ、ガボツ」と腰のあたりまで雪に埋もれながら、その方へと進んで行きました。遠くから見ている兄には、僕がなんてゆつくりしていることだろうと思えたか知れません。しかし、僕にはそれで精一杯急いでいるつもりだつたのです。もちろん、スキーなどははいってはいなかつたのです。

だんだん近づくにつれて、それが何ものであるのかはつきりしてきました。それは大きなふくろうだつたのです。雪をこぐ音でわかつたのか、こちらをじつとにらんでいます。僕は少々恐ろしくなつて来ました。僕の心臓は怖さのための『ドキドキ』と、捕まえてやろうとする『ワクワク』とがいつしよになつて、まる

で『ワキンワキン』と鳴っているかのようです。もうこうなつたら何が何でも捕まえてやるんだという勇気が湧いてきました。そこで、かねての手はず通り兄さんに手まねで鳥だという合図を送つたのですが、仲々わかつてもらえずに苦労しました。かと言つて大声を出せばふくろうが逃げて行つてしまいますから絶対に声を出すことは出来ません。とにかく、苦心の末、鳥であるということだけはわかつてもらえました。ところが、どうせ飛んで逃げたしまうだろうと思つてか、兄は一向に手助けに来てくれそうにありません。仕方がないので一人でなんとか捕まえることにしました。

枝に止まらずに、直接雪の上に行かずくまつているところを見ると、きつとどこか怪俄でもしているのだろうと思ひ、『それならば捕まえるなんてたやすいことだ。』と安心して近づきました。ところが、そのあてはもの見事にはずれてしまつたのです。あとわずか三mというところまで来た時、「バサバサツ」という大きな羽音とともに飛び立つたふくろうは、そこよりも少し上の高い栗の木の枝のつべんに止まつてしまつたのです。こうなつたらもう駄目です。やはり怪俄なんかしてはいなかつたのです。僕は、ふくろうにしてやられたのが悔やしくて、それだけではとも諦める気にはなれません。そこで、ちよつと迷案を思いついたのです。

鳥でも巢を守る親鳥のように外敵をあざむくことが出来るのですから、人間でも反対に鳥をあざむくことが出来ないはずはないと思つたのです。『ふくろうの奴は、きつとお腹をすかせているに違いない。だからこんなところでお腹をかかえて？うずくまつ

たりしていたのだ。こうなつたら、僕があいつの餌になつて捕まえてやろう。』と決心しました。ここで、鳥についての今まで本など読んで知つていた知識とか、これまでのそういうつた経験が大変役に立ちました。さあ、これから僕の右手はネズミ役を演じることにになりました。というのは、前にも言いましたようにふくろは小鳥のような小動物が大好きなのです。従つて、ネズミも大好物です。だから、僕の手をネズミに見せかければきつとおいしそうな食べ物があると思つて喜んで降りてくるに違いないと思つたのです。場所柄もとても良く、ちょうどこの山の麓の僕がいる所には今は水も流れていない小川があつて、まるで、戦争の時に掘るさんごうのようになつていて、そこだけくぼみが出来ているのです。

そこに入り込んだ僕は、右手だけを雪の上に差し出しました。ふくろうからは、手首から先だけしか見えていません。手袋もしていない僕の手は、こごえてしまつて思うように動かないけれども胸がわくわくしていたいして冷たいとも感じない程です。さあ、戦闘開始です。どつこい、ここで一つ大事な事を忘れていました。ふくろうのような夜行性動物は、昼間ほとんど目が見えないということです。そこで、ネズミの鳴き声もサーピスすることにしました。舌先で「チューチュー」とやるわけです。このあやしげなネズミの鳴き声を発しながら、雪の上に出した右手をごそごそと動かし始めました。

しばらくごそごそやつた後、少し顔を出してふくろうの様子を見てみると、奴は全く素知らぬ顔をしてあらぬ方に目をやつています。『さては、ネズミの鳴き声が聞こえないのだな』、と思つ

て、さらに大きな声でネズミを鳴かせてみました。すると、『なぬつ』とばかりにこちらをじつとにらみつけたのです。大変、僕の頭が出たままです。あわてて首を引つこめると、『ウシンシツ、さあもう一息だ。』とばかりにさらにその動作を繰り返しました。しかし、ふくろうの奴はこちらをきよんとしたような目つきでもつて、首をさかさまになるぐらいかしげて見ているだけで全く降りて来る様子はありません。『やつぱりだめかなつ。』などと思いながらもさらに同じことを三十分ばかり続けたでしようか。その間、時々ぞいては見ましたが、一向に降りて来る気配は感じられません。『あまり僕が首を出してのぞき過ぎるから、かえつて警戒して降りて来ないのだらうか。』と思ひながら、それでも同じ動作と「チューチュー」を、いい加減口がすつぱくなる程続けながら、もう一度のぞいて見ることにしました。

その時、僕は思わず「あつ」と声を出すところでした。ふくろうが僕の手を目かけて今にも舞い降りて来ようとしているではありませんか。僕は心臓の音が一般と高まるのを感じました。もちろん怖さです。と同時に、ネズミの存在も危うくなり、果してこのままネズミちゃんを出したままにして置くべきかどうか首脳会議は大混乱です。「バサツバサツバサツ」とうとう降りて来たのです。

ところが、まっすぐに僕の手を目差して襲いかかつてくるものとばかりに思つていたふくろうは、全く予想に反して、僕の背後の、僕から一mとは離れていない目の前の雪の上に降り立つたのです。今や、僕はふくろうと一対一で向い合うところとなつたのです。そして、ふくろうからは完全に丸見えの状態です。けれども意外

なことに、ふくろうは一向に逃げようともせず、僕の顔に一瞥を
与えただけですぐ目を僕の手の方に向けてしまつたのです。僕は
何て頓間なふくろうだろうと節さも忘れて、思わずふき出して
しまいそうになりながらも、『このまま飛びかかつたのでは逃げ
られるかも知れない。』という不安で、『もう少しおびき寄せて
左手に飛びかかつてきたところで右手でかかえ込んでやろう。』
と考えました。その時にはすでにネズミ役の右手を左手にかえ、
ふくろうと向き合つていつでもかかつて来いといつた状態だつた
のです。しかし、ふくろうは時々気になるのか、例のきよとんと
した間の抜けた目を僕の方に向けて、仔細ありそうに首をかしげ
ては、また左手に目を移すといつたことを繰り返します。その、
目のくりくりした愛敬のある顔を見ていると、本当にお腹の底か
ら笑いがこみあげてきて思わず声をたてるところでした。

さあ、ネズミが活発に雪を「バツバツ」とはね除けました。と
その瞬間、ふくろうは「バサバサツ」と急いよく僕の左手に飛び
かかつて来て、その鋭いツメの伸びた足で僕の人さし指と中ゆび
とを「ガキツ」とばかりにつかんでしまいました。もうこうなつ
たら最後こちらのものです。ふくろうの生臭いのも忘れて夢中で
抱きついてやりました。その時は、もううれしくてうれしくて、
ふくろうを抱いたまま声にもならないような声をあげて笑いまし
た。本当に自分でも苦労したかいがあつたというものです。

ふくろうをしつかりと抱いたまま帰りかけると、しばらくして
遠くから様子を見ていた兄が、すぐに大きな箱を持つて迎えに來
て来れました。箱に入れようとしても、しつかりつかんだ僕の指
をなかなか離さなくて一時はどうなることかと不安になりました

が、それでもどうか目隠しをして指を離させ、やつこのことで
箱の中に押し込んでようやく家に連れて帰ることが出来ました。
その間全く二三時間は経過していたでしょう。寒いとも何と
も思わず、ただふくろうを捕まえた時はもう喜びでした。その日
の夕食の時に、次の日の学校でも、その奮闘ぶりを得意顔で皆
んなに話して聞かせたことは言うまでもありません。

そのふくろうが、僕の家で飼われていたのはそれから二十日は
かりの間ですが、一番困つたのはなんと言つても彼に与える食べ
物でした。とにかく肉食ということですから、最初は鯨の肉とか
魚のあら骨などを買つて来ては与えていたのですが、いつか貯金
箱は空になり、挙げ句の果てには飼猫のシロ君が苦勞して獲つて
来たネズミを、うまくたらし込んで横取りしてまで彼に与えまし
た。また、同じように、飼つていた鳥などが死ぬとそれも彼に与
えました。

特に、その食べる事に關してとても興味深く思つたことは、明
るい中で、餌を食べさせようと口元に持つて行つてやつても、巢
箱の中に放り込んで置いてやつても、少しも食べようとせず、
ただいつものきよとんとした目でじつとこちらを見ているだけ
ですが、一旦毛布のようなものを箱におおいかぶせてやると、とた
んに中でごそごそやり始めて、ものの10分もしてからその覆いを
取り去つて見ると、ネズミの場合は毛一本残さず、雀などの小鳥
の場合にはわずかに羽を残すのみで、完全にお腹に収めてしま
うのです。そうして、あまりきれいな話してはありませんが、しば
らくすると必ず糞を出しますが、全くそれとくると、おもしろい
ことにその大きな塊に、消化出来なかつた毛とか小骨などがいつ

ばい混ざっているのです。ですから、山の中でそんな糞を見かけたならば、すぐ何がどんな餌を食べたのかわかつてしまいます。

やがて、そういうた食べ物も与えることが出来なくなつてしまふとどうしてもそれ以上飼つてはいられなくなつて、とうとう春を待たずに山へ戻してやることにしました。かつて彼をつかまえた山の麓まで歩いて行つて、「元気で暮すんだぞ。」とかなんとか言いながら大空へ放りあげてやつたのです。ところが、しばらく狭い箱に入れて飼つていたので運動不足になつてしまつたのか、悠々と元気に飛び去るはずのふくろうが、（当然自分でもそう信じていたのですが。）元気に飛び去るところか、全く僕の期待を裏切つて、わずかに羽を数回ばたつかせると、そのまま雪の中へドサツとばかりに羽を広げた恰好で落ち込んでしまつたのです。『これでも鳥か。』と思うと恥かしくなつてしまいました。それでも二度目にはどうか重々しそうにどこかへ飛んで行つてしまいました。今でも時々彼のことを思い出しますが、今はどうしているだろうと思ひにつけても、彼を捕まえた時のあの、僕を目前にしながらもまんまと僕の策略にかかつて左手をネズミと思ひ込んだまま、猛然と飛びかかつて来たのを思い出す度に改めておかしさが懐しさと共にこみあげてくるのです。

完

北海道大学馬術部名簿

歴代部長

氏名	住 所	電 話	勤 務 先
永井 一夫	初代部長 札幌市南2条西12丁目	211-2435	北大名誉教授
高松 正信	第二代部長 東京都世田谷区松原6丁目36-8	322-6752	(江別市)酪農学園大学教授 函館高専校長
黒沢 亮助	第三代部長 札幌市北1条西22丁目	611-1057	
太奈 康光	第四代部長 函館市湯川町2の8		
松本 久善	第五代部長 物 故		
半沢 道郎	現部長 札幌市北6条西12丁目	221-2268	

特別後援会員

氏名	住 所	電 話	勤 務 先	電 話
野間口英喜	東京都杉並区水福町335	321-7617	日航ホテル社長 川崎日航ホテル社長	571-4911
柴谷 五郎	札幌市豊平3条4丁目	811-8456	柴谷商会社長	811-0628
滝沢 政雄	旭川市パルプ町1条4丁目国策パルプ第一クラブ内		日本造林社長	
原島 つる	札幌市北2条西27丁目	621-1451	原島洋装院院長	
庄内 貞夫	" 白石中央53の3	861-2504	歯科医	
武田 忠幸	" 南6条西20丁目	561-3286	北都ハイヤー、北都バス社長	711-7214
小野 忠	" 北18条西5丁目	721-1526	北大モーターズ社長	
片寄	" 北18条西6丁目 静山庄			
高樫 英治	" 北3条西16丁目	621-3840		
佐合 義弘	" 琴似町8軒3条東3丁目651	631-5744	札幌市民生活協同組合理事	
高橋留次郎	" 北14条西9丁目札幌競馬場内		日本中央競馬会札幌競馬場	
加藤 和男	東京都太田区南馬込6丁目29番-1号			
田中 昭志	札幌市北17条西15丁目 佐藤マンション2号	731-8489	札幌鉄道管理局	
岡沢 尹大	" 南1条西23丁目 米屋方	611-9558	北大理学部高分子溶液物理学教室	
沢田 八衛	" 北9条西4丁目		沢田商店社長	
酒井 保	" 北27条東3丁目		北大獣医学部教授	

氏名	住所	電話	勤務先	電話
堀内 寿郎	札幌市北9条西5丁目		北大学長	
大木 毅	" 北14条西19丁目札幌競馬場		日本中央競馬会札幌競馬場長	

卒業生

氏名	卒業年度	住所	電話	勤務先	電話
中野友二郎	昭4 農農	南多摩郡多摩町桜ヶ丘3丁目33の4		科学教育研修センター	
平山 常介	4 工機	横浜市鶴見区獅子ヶ谷町1222の19		日本海事業興業	
中谷 勝紀	5 工機	杉並区桃井1-15-23		飯野重工業	
間 克一	6 農畜	千葉県葛飾郡鎌ヶ谷町初富522		地方競馬全国協会参与	
岩垣 駛夫	6 農農	神奈川県川崎市生田字塔ノ越6983		東京農工大学教授農学部園芸学研究室	(0423) 61-3311
河崎 秋三	6 農畜	八王子市高倉町1552		東京都八王子市競馬場	
永松 四郎	7 農畜	太田区千束町1-58-9	717-3484	永松商事	
半沢 道郎	8 理化	札幌市北6条西12丁目	221-2286	北大農学部教授	
武田 朝男	8 農畜	目黒区中目黒5-18-2	714-7015	日本製酪協同組合	
東園 基文	9 農農	目黒区五本木3-30-1	711-8877	宮内庁待従職参事	
田畑 武夫	10 医	札幌市南5条西2丁目	571-3733	田畑産婦人科院長	571-1330 (X)
植村 勤一	10 農畜	目黒区鷹番町45	712-0390		
本田 桓康	10 工機	千代田区紀尾井町4の11	262-5524	プレス工業KK常務取締役	
加藤 英夫	11 医	不明 清水市有東坂554の19 (7420)	0543-456329		
脇田代子郎	11 農化	神奈川県藤沢市辻堂西海岸6366		三菱化成	
大迫 明徳	11 理化	世田谷区宮坂1丁目14-9	428-4817	バイエルンジャパン	
吉見 一郎	11 農教	北多摩郡狛江町小足立620	489-0491	雪印乳業KK取締役	353-3111
渋谷 周平	11 農畜	渋谷区代々木1-22		日本アイスクリーム協会	
森山 武雄	12 医	青森県南津軽郡浪岡町		国立岩木療養所所長	
滋賀 秀明	12 医	港区白金台5-3-20		大同製鋼KK東京診療所長	901-4169
小村 達夫	13 農生	岡山県吉備郡足守町足守861		岡山大学教授	
前川 静弥	13 理化	室蘭市新富町1の6番14号社宅番外14号		日本製鋼室蘭製作所	

高橋道幹
(9年主)
札幌市北9条西13
北野園子学級
教授

山下 正亮 (1 ² 主)	13 農畜	札幌市白石町本通 8 1 3 - 1 3 5		酪農学園大学教授	
石井 昌長	13 農化	千葉県船橋市夏見台町夏見台団地14-10		アルコール海運倉庫KK	
小笠原義顕	13 工電	川崎市宿河原 2 2 2 3		旭電気KK	
桶本 勝登	13 農経	杉並区西荻北 2の27の8ライオンズマンション西荻第2D-608		中央技能検定協会監事	
松平 悌	13 農農	中央区銀座 7 - 9 - 2 0	5 7 2 - 2 3 8 1	サツポロビール	
黒沢 良雄	13 農経	茅ヶ崎市浜竹 4 - 6 - 3 0		日本長期信用銀行	
小田 昇	14 農畜	目黒区上目黒 3 の 4 4 の 1 9 の 2 0 5		ホテルカスガ社長	
池内 武夫 (1 ³ 主)	14 農畜	世田谷区若林 4 - 2 2 - 5	4 1 4 - 0 3 6 1	日本中央競馬会	
中尾 敦司	15 工敏	船橋市習志野台 1 の 9 6 4 - 8		大日本鋳業	2 1 1 - 2 6 7 1
西村 雅吉 (1 ⁴ 主)	15 理化	区松蔭町 1 1 0 9		北大水産学部教授	2 - 0 3 1 1
大谷清喜	15 農実	金沢市片町 2 - 2 2 0 号木谷ビル	2 1 - 5 0 4 1	瓦士建	
石井 和彦 (1 ⁵ 主)	16 農畜	鳥取市湯所町 1 の 3 0 7		鳥取大農学部教授	
河原 清作	16 工土	小樽市忍路町塩谷村		自 営	
熊沢 洸	16 農実	十勝国河東郡士幌町士幌		士幌農協 穀物工場	
関 義人	16 医	秋田県湯沢市西松沢		関内科 小児科医院	3 2 0 0
高木 史郎	16 工敏	茨城県東茨城郡茨城町 1 0 8 4		波崎高等学校校長	3 3 7 7
中曾根 賢	16 農実	室蘭市常盤町 6 - 2 4		胆振支庁	
林 健弼	16 農実	札幌市手稲福井 4 9 - 1 3		ホクレン	
半沢 宏	16 工機	札幌市北 6 条西 1 2 丁目	2 2 1 - 2 2 8 6	北大工学部教授	
伊関 悦郎	16 工敏	函館市宮前町 2 1 3		函館水産高校	
門池 正夫	16 農実	名古屋千種区丸山町 3 - 2 4		旭化学工業KK	
秋吉 照忠	16 農林	札幌市真駒内曙町 1 - 1 - 1	5 8 1 - 0 4 1 5	北海道合板工業組合	2 4 1 - 5 8 4 5
福光 幸彦	17 医	札幌市南 7 条西 4 丁目	2 3 1 - 1 3 4 3	福光延寿堂院小児科	2 5 1 - 3 2 1 1
岡田 光夫 (1 ⁶ 主)	工木	札幌市南 7 条西 2 2 丁目	2 3 1 - 3 7 5 0	札幌市役所主木部長 建設局長	5 6 1 - 4 7 5 0
石川 恒	農畜	札幌市北 2 8 条東 3 丁目		北大獣医学部教授	
白鳥 善三	農実	弘前市大字薬師堂熊本 1 9 の 2		大成軽プロックKK社長	
小林 五郎	工電	神奈川県中郡大磯町東町 2 の 6 4		沖電気工業KK特殊機器開発部次長	
山根 乙彦	農畜	鳥取市湯所町 2 の 4 2 2		鳥取大学農学部教授	

氏名	卒業年度	住 所	電 話	勤 務 先	電 話
前田 正義	18	農実 名古屋市瑞穂区弥富町紅葉園78		雪印乳業名古屋マーガリン工場長	
大戸 進		農林 砂川市三砂町9		三井木材KK砂川工場長	
小池 栄一		工土 札幌市藻岩下475	581-2290	北海道電力札幌支店土木課長	
平井 宏和		工電 東京都町田市玉川学園8-18-9		日本電気衛星通信開発室	
安部 孝	19	工電 " 小金市貫井北町3-19-5	81-4100	高見沢電気製作所	
坂井 弘		農化 福山市東深津町290		農林省中国農業試験場	
田口 暢茂		医 札幌市北22条東18丁目		道立千歳病院	
稲葉 恵一		農化 大阪府高槻市天神町2の16の15	5-2759	日本油脂KK	
福岡 邦泰		農農 札幌市琴似町宮の森19		道庁総合開発企画部開発計画部長	
大手 英夫	19	理化 新宿区西大久保2-219	365-4523	東邦ソートフレームKK	
富塚 治郎	20	農畜 東京都青梅市新町都立種畜場内		東京都立種畜場	
岸田 高三郎		農化 不明			
羽鳥 栄治		工土 東京都杉並区大宮前6丁目453		鉄道開発公社海峡線調査部	
小林 正英		農畜 " 杉並区阿佐ヶ谷北3-26-10	339-0869	東京都農業試験場	
木全 幹雄	21	農化 " 杉並区清水1の6-8		自衛隊陸上幕僚監部	
山崎 治雄		工治 布施市西堤623狩勝工業		大阪市城東区放出町2179狩勝工業	
宇津見千之助		農畜 栃木県小山市横町2206			
上野 新次	22	農農 新潟県加茂市赤谷		県立加茂高校	
和田 晴		農畜 不明		宗谷支庁経済部長	
宮崎 利昭		工機 在ベルー		第一物産KK	
武田 祐幸	23	理地 国際航空新武蔵野市境南14-1462		国際航業KK地質部長	
田之上家久	26	農水 三鷹市牟礼2の14の10の104		日本放射線同位元素協会	
後藤 義英		農獣 札幌市円山西町2097		札幌市環境衛生事業所長	
斉藤 善一		農畜 弘前市若克町79		弘前大学農学部教授	
鈴木 敏夫		農畜 空知郡江部乙町江部乙高校公宅		江部乙高校	
渡植貞一郎		農畜 前橋市岩神町280群馬大学医学部内分泌研究所		群馬大学	
鷹野 保				北海道農業試験根室支場	

永井 重翁	農獸	水沢市新小路 2 番地雪印乳業KK水沢工場		雪印乳業KK水沢工場	
梶谷 晴男	農水産	大阪府生野区新今里町 5 の 1 7		大阪化学合板KK	4 8 1-4 4 3 3
古谷 昌司 (26.27主)	農畜	浦和市別所 3-3 8-1 0	(0488)22-5073	古谷製菓KK技術部	(0488)31-5873
下飯坂 隆	"	中野区白鷺 2-1 7-3 和田方	3 8 5-3 2 6 9	日本練馬登録協会	4 2 9-5 6 8 4
佐藤 敏	"	川崎市岡上 5 1 0-2 8		雪印乳業KK技術部	268-3111 内線588
福島 務	29 医	札幌市琴似町 1 条 6 丁目	6 2 1-0 8 5 1	北大産婦人科教室	
阿部晃一郎	工鋏	新居浜市角根山根西		住友金属鋏山新居浜市端出場	
鎌田 正人 (28.29主)	農畜獸	浦河郡浦河町西幌別	浦河 3-284	KK鎌田牧場	
田中 浩	工冶	高槻市安岡寺町 4-2 7-2 6		神戸製鋼KK	
正富 宏之	理動	美唄市光珠内町 3 区		専修大学美唄農工短大	
斉藤 成俊	31 農経	札幌市北 1 条西 3 0 丁目 円山公宅 3 号	6 2 1-4 7 7 0	北海道信用農工連	
佐伯 和夫 (旧石塚)	獸	白老郡白老町萩野第三石山		昭和工業KK	
大久保利彦 (30主)	"	天塩郡豊富町公営住宅 2 1-3		雪印乳業KK幌延工場	豊富 7 6
加藤昌太郎	理物	国分子市西町けやき台 3 2-1 0 3	(0425)22-0696	防衛庁陸上葛僚監部	
加藤 元	獸	杉並区久我山 3-7-2 7	3 3 4-1 2 8 6	ダクタリ動物愛護病院	3 4 4-3 5 3 6
千田 哲生	"	東京都調布市小島町 6 3 4		中央競馬会競走馬保険研究所	
岡本 洸	農生	草加市草加松原 4 丁目 D 5 8-2 0 4	(0489)-394 07	十条製紙KK東京事業所	
荒川 清	32 経	札幌市界川町 4 9 5	5 6 1-4 6 7 2	札幌トヨタ自動車KK	2 6 1-3 2 1 1
榎本 幸人	理植	淡路島津名郡淡路町岩屋神戸大学理学部岩屋臨海実験所		神戸大学	
岡部 満雄	農畜	不明 札幌市		北海道農林部畜産課	
斉藤 実	経	富山市高原本町 9 6		不二越鋼材工業KK	(045)731-1261
宮沢 寛 (31主)	農林産	逗子市山ノ根 3-1 2-1 0	(468)71-2487	日本揮発油建設部	
伊藤 亮	33 獸	岩手県岩手郡滝沢村菓子岩手種畜牧場菓子牧場		農林省岩手種畜牧場菓子牧場	
松田 環	医薬	静岡県三島市谷田国立遺伝学研究所内		国立遺伝学研究所	
乾 直道	理動	藤沢市辻堂新町 2 丁目 4 の 2 2	(0466)36-7162	癌研究所病理部	
栗原 康	工鋏	東京都北多摩郡久留米町上の原 2 の 4 東久留米住宅	6 5 の 2 8	通産省貿易振興局経済協力部技術課	
渡辺 俊弘	工応化	上尾市大字上字堤下 3 5 9 上尾シラコバト公団アパート	1 7-4 0 1	北岩化成工業KK	
柴田 久男	34 工電	札幌市手稲町西野 3 7	6 6 1-8 7 0 9	北海道電力火力部火力工事課	

氏名	卒業年度	住 所	電 話	勤 務 先	電 話
今田 哲	農化	兵庫県西宮市甲東園 2-85 武田薬品研究所		武田薬品KK	
生田 ³ 勝 ³ 菅原 ³ 照雄	経	川崎市丸子通 1-475-1 読売新聞多摩川寮 5-3		読売新聞報道部	
土井 敦	文哲	札幌市北 2 条西 2 7 丁目		毎日新聞	
山本 智	農畜	札幌市北 2 条西 2 7 丁目		ホクレン生乳課	
栗津健太郎	水	樺戸郡浦臼町字浦臼内 1 4 区		浦臼高校	
村山 哲	水	札幌市南 1 条西 1 7 丁目	621-0701	銀座屋(製パン業)	
樋口 ³ 正 ² 明 ² 幹夫	経	岡山県倉敷市浜ノ茶屋 1 丁目 5 の 2 2		本田技研工業倉敷営業所	
千葉 幹夫	法法	東京都世田谷区上馬 5-23-8		東京都衛生局医務部	(212)5111内2582
中村 美幸	獣	東京都世田谷区上用賀 2 の 1 の 1		中央競馬会馬事公苑	
佐伯 雄二	経経	東京都中野区鷺宮 6-19-19	999-2443		
本橋 幹久	35 農畜	群馬県館林市大字成島 2544 森永住宅		森永乳業KK	
奥野 静子 (白片山)	農畜	サンパウロ在住			
小長谷善高	文英	札幌市北 2 条西 2 3 丁目 片山方	611-8414		
田中 紀介	水	長崎市西坂町 1 番地 NHK長崎放送局		NHK-TV放送部	
長谷川邦夫	農林産	静岡県清水市宮代町 6 江尻本宿町 6		富士合板KK研究所	
門奈 駿	法法	立川市砂川町 692 江の島東団地 250		岩崎通信機KK経理部	
森本 ³ 悌 ⁴ 次 ⁴ 修一	医	茅ヶ崎旭ヶ丘 13-4	(0467)82-5746	国際興業航空サービス部	
稲垣 修一	農林産	東京都港区芝浦 1-4-1 好善社			
佐藤 典子 (白佐藤)	36 理化	愛知県知多郡阿久比町白沢みのかけ 10の10		大同製鋼KK	
高林 紀夫 (白高林)	医	アメリカ留学中		北大病院第 2 内科	
河原 紀夫	医	横浜市磯子区岡村町 238	751-4431	虎ノ門病院	
湯浅 正之	理地	府中市白金台 6-2-28		アジア航測KK	
吉田 享	農畜	武蔵野市西窪 4 1 1 伊藤忠三鷹寮 0425-50の5		伊藤忠商事KK畜産課	
千葉 祐記 (3)6	工衛	八王子市打越町 715-203		高砂熱学工業KK技術部	
広岡 暢夫	37 農畜	北九州市小倉区貴船町 2 0 番地	92-2031	雪印乳業小倉営業部	
森 弘津	農畜	茨城県西茨城郡岩間町全販連内		全販連	
	工精	名古屋市区辻町 2 の 3 6 大隅鉄工所第一寮		大隅鉄工所	

四柳 智久	医薬	東京都日根区大岡山 2-5-23 若竹荘	717-8095	東大大学院(薬学部)	
木塚 信次	農畜	東京都杉並区久我山 3-2-24		湘南食品KK研究室主任	
伊藤 公一	医	虻田郡俱知安町北4条東1丁目 俱知安厚生病院		俱知安厚生病院	
大場 ⁵ 善明	文史	東京都足立区栗原町1555 栗原団地14-104		読売新聞広告部	
鶴見 ³ 好博	理化	東京都大田区大森北 3-11-7	764-3970	三菱江戸川化学KK研究所	
小島 杏介	水	横浜市神奈川区菅田町 2872		淀橋保健所	
小山 毅	教	東京都中野区南台 5の27の1の134	384-1765	専修大学文学部	
市川 ³ 瑞彦	38 理物	札幌市北13条西4丁目 久道方	731-0921	北大教養部物理学教室助手	
小出 秀通	医	帯広市外鈴蘭国立十勝療養所		国立十勝療養所	
宮崎 健	文露	横浜市区日吉町 128 産経日吉住宅		産経新聞	
玉沢 一晴	医薬	埼玉県南埼玉郡白岡町大字上野田 1013の2	(0488)82-3436	山之内製薬KK中央研究所	
岡田 征至	法	世田谷区上馬 3の18の9-1 伊丹荘		北海道拓殖銀行 馬喰町支店	拓殖銀行 札幌支店 〒058 521-4111
志水 一允	農林産	横浜市港南区日野町 57の1 藤ヶ沢住宅 6-408		農林省林業試験場	501-3766
清水 洋	農畜	横浜市港南区日野町大多良住宅 10-104		畜産局食肉鶏卵課	
原 重一	農農	神奈川県相模原市上鶴間 3553		交通公社調査部	211-3211
堀川 芳男	農畜	東京都中野区上高田 2-16-9	385-8685	アメリカナコーポレーション日本支社	
宋吉 峯郎	医薬	東京都渋谷区長谷戸 46	461-5550	国立ガンセンター研究所	
新原 輝久	理地	東京都北多摩郡狗江町泉 1284		国際航業KK	
田中セツ子	農工	東京都世田谷区玉川奥沢 3の121	702-1365	高千穂交易	
恩田 正臣	39 農畜	群馬県勢多郡富士見村小暮 2425 群馬県畜産試験場		農林省群馬畜産試験場	
横沢 ³ 喜美子	薬	東京都杉並区清水 3丁目15の2		天使女子大	
小林 ³ 朋子	農畜	札幌市北36条東6丁目		札幌市役所公関課	
八木 ³ 正巳	40 理生	札幌市琴似町発寒 962-20	661-1478	中外製薬総合研究所	
野田 行文	40 獣	東京都練馬区中村 3-36 中外製薬中村寮		ユニックKK	
大木 誠示	40 理数	埼玉県入間郡富士見町大字鶴馬 2824		日本揮発油KK	
吉田 ³ 賢一	40 工治	横浜市港南区大久保町 599-2 第2北斗寮		三菱重工KK東京製作所	
(旧姓御坊田) 守原 正	40 工精	東京都太田区田圃調布 2-40 第一桜ヶ丘寮		日立製作所	
萩原 雅典	40 経				

三浦清行

氏名	卒業年度	住 所	電 話	勤 務 先	電 話
滝沢南雄 (39)	40	理植 札幌市北29条西5丁目 めぐみ荘 ^{旭町}	751-1303	北大理学部大学院 ^{産林産試験場}	57-1171
松永 武彦	40	工電子 東京都小平市学園西町1211日立平橋社宅D-14		日立製作所	
水野 佑彦	40	理化 札幌市北29条西5丁目 めぐみ荘		北大結核研究所助手	
横田 肇	40	農化		明治乳業今金工場 ^{研究所}	
菅野 弘	40	農畜 空蘭市幸町119 胆振支庁		胆振支庁農務課畜産係	
牧 竜子	40	薬薬 不 明			
滝沢 迪子	40	独文 江別市大麻高町25-9		北大文学部助手	
松尾 英彦	41	水産		日魯漁業	
八木多賀子	41	文哲 札幌市琴似町発寒962-20	661-1478		
松田 慧子 (旧姓大城)	41	法法 札幌市北10条東8丁目		北大法学部助手	
黒沢 道雄	41	工機			
高野 文彰	42	農農 アメリカ留学中			
小栗 紀彦 (40)	42	農畜 札幌市北39条西5丁目	721-7916	北大農学部助手	
近藤喜一郎	42	文史 名古屋市中区大須3丁目31-23			
高橋 昭夫	42	獣 野付郡別海村別海農共家畜診療所内		野付農共家畜診療所	
八木沢守正	42	理生 東京都目黒区大橋1-8-5 目黒第5コーポラス2FL205号		協和醸造	
山村 勝	42	農林 山形県長井市官1122		西置賜地方事務所	
加藤 正昭 (41)	42	工衛 東京都中野区若宮町2丁目21番 ^{根良房夫方}		^{加藤商店}	
田中 倬	44	医 不 明			
阿部 勝彦	43	農林 東京都港区元麻布2の11の20大昭和製紙一木松寮		大昭和製紙株式会社	
五十嵐 章 (42)	43	法 旭川市南4条24丁目		モービル石油	
池田 統洋	43	工機 埼玉県上尾市原市6の965		東芝電機原子力技術プラント一課	
入江 圭	43	工衛 東京都世田谷区成城町2丁目6番地13号		東京都庁	
高倉 宏輔	43	獣 野付郡別海村中西別海農共中西別家畜診療所		別海村農業共済組合	
降旗 正忠	43	工電 千葉県船橋市山手2-3-34 三菱電機船橋寮		三菱電機	
狩野 和子 (旧仙波)	43	教 小樽市桂岡361番地			
山本 紘明	43	経 大阪市枚方市牧野本町1丁目35番地19-13		三洋電機審査部鑑査課	

片寄

浜岡 秀洋	43	工機	大阪市寝屋川市東大和6-5	浜明男方		
斉藤 勝雄	44	農機	札幌市澄川12		831-6281	ホクレン農業機械課
田中 力	44	獣	岩手県花巻市石神町76	雪印乳業花巻寮		雪印乳業花巻工場
春田 恭彦 (43)	44	農畜	札幌市北24条西3丁目	加藤方		北大獣医学部学生
村井 弘一	44	農畜	帯広市東2条南20丁目	サクラハウス2号	3-7897	協同飼料帯広サービスステーション
山本 進	44	水化	北海道河東郡音更町土狩			
寺崎 弘恭	44		大阪府豊中市刀根山町4-98	近藤方		大阪大学在学中
今井 雅子	45	農化	札幌市北3条西15丁目		631-1621	北海道てんさい研究所
小野 政則	45	農林	豊橋市東雲町124-2			永大産業豊橋営業所
加藤 公敏		理化	札幌市北18条西5丁目	五月荘	711-6844	北大理学部学生
橋口 庸		医	札幌市北18条西5丁目	五月荘	711-6844	北大医学部学生
本田 徹 (44)		医	札幌市北20条西7丁目	藤見荘		北大医学部学生
大田 清澄		農農	茨城県土浦市中貫25	日本住宅公団中貫単身宿舍		日本住宅公団研究学園都市開発局
梶 秀世		獣医	札幌市北27条西21丁目			
中寺 清久		工機				
松井 亮		医	札幌市北26条西3丁目	成美荘	711-5461	

現役部員

氏名	学年・学部・学科	現住所	帰省先
今井 敏郎	3 理化2	札幌市北3条西15丁目 631-1621	同左
大見 太一	4 文文	" 北18条西6丁目静山荘	福岡県北九州市八幡区久喜町1丁目
梶村 哲世	4 獣医	" 北18条西6丁目静山荘	大阪府藤井寺市小山藤美町9-4
榊井 明	4 工敏	" 北20条東4丁目北沢方 741-3753	大阪府東大阪市鴻池533の3
大沢 芳夫	3 文	" 北20条東4丁目北沢方 741-3753	名古屋市千種区西坂町4の23
小鳥 京介	3 獣医	" 北14条東5丁目金谷方 741-2478	群馬県高崎市見沢町374の3
武石 悟郎	3 獣医	" 麻生町4丁目17-5 731-0955	同左
田崎 拓昭	3 獣医	" 北20条西5丁目中島方 721-0753	鹿児島県曾於郡末吉町岩崎3613
近森 憲助	2 教理	" 北12条東2丁目森田方 741-1953	高知市白石町8丁目7-85
西村正二郎	2 教理	" 北20条東4丁目北沢方 741-3753	山口県宇部市厚南区妻崎
山下 秀樹	3 法法律	" 北19条西6丁目小池荘	東京都太田区南馬込1-32-13
横山 豊昭	3 獣医	" 北20条東4丁目北沢方 741-3753	兵庫県尼崎市友行字南吹上げ130-14
北越 龍三	2 教理	" 宮の森473	同左
柴原 寿行	2 教理	" 北21条西6丁目	兵庫県出石郡但東町中山805
鈴木秀次郎	2 教文	" 北20条西7丁目金木方	静岡県袋井市延久528
中川 元	3 農農生	" 琴似町宮の森831	同左
南部 孝一	2 教理	" 北20条東4丁目北沢方 741-3753	北九州市八幡区祇園原町8-1
則近 彰	2 教文	" 北17条西8丁目恵迪荘	岡山県岡山市西大寺邑久郷1691
平林 正二	2 教文	" 北23条西9丁目沼出方 751-3761	愛知県知多郡東浦町石浜寄木118
福田 1 禾	2 教理	" 北6条西13丁目北大女子寮 251-1991	岩手県九戸郡九戸村伊保内
船水 周子	2 教文	" 北16条西3丁目常本方 731-7203	奇森県弘前市楮町17
松岡 正明	2 教理	" 北20条西7丁目松木方	
松好 秀章	2 教理	" 北17条西8丁目恵迪寮	大阪市城東区放出町199
山内 泰雄	2 教文	" 北17条西8丁目恵迪寮	大阪府門真市日出町21-24
安井 克	2 教理	" 北18条西4丁目菅野方 711-4028	神戸市須磨区千守町2丁目5-11
安井 富美子	2 教理	" 北6条西13丁目 251-1991	静岡県三島市若松町5組

物 故 者

辻 村 憲 吉	元配属将校
沢 田 鶴 松	昭 4 工 鉱 鉱
真 鍋 雅 彦	" 5 農 畜
愛 甲 展 寿 家	" 6 農 実
九 鬼 誠 之 助	" 8 農 化
岩 崎 帰 一	" 10 工 電
前 野 正 久	" 12 農 畜
畜 堅 稔	" 14 農 実
永 田 敏 雄	在 学 中 死 去
下 条 規	昭 14 農 畜
石 川 正 吉	在 学 中 死 去
菅 間 威	昭 15 農 畜
佐 藤 誠 龟	" 15 農 実
山 本 義 則	" 15 農 化
佐 藤 誠	" 15 農 実
水 倉 寛	" 16 工 土
蛎 崎 愛 男	" 16 農 実 昭 17 主 将
小 林 誠 平	" 17 農 化
福 本 途 夫	" 17 理 化
山 本 亨	" 19 農 農
安 達 信 一	" 23 医 医
松 本 久 善	第 5 代 部 長 元 農 学 部 教 授
稻 垣 新 一	特 別 会 員
高 井 久 芳	" 13 農 畜

編集後記

新入部員人部前に発行の予定であつたが、例年のことながら結局六月発行になつてしまつた。途中から仕事をひき継いだ関係もあつて、当初ユニークな部報をとはりきつていた部員諸兄、編集委員に対しこのような編集になつたことをおわびします。

しかし、もつともつと紙面を裂いてもよいはずの戦績欄、部員の競技会体験談等が少なかつたのはさびしい限りです。

又忙がしい中、部報の為ペンをとつてくださいました諸先輩、広告取りに奔走してくれた部員に対し御礼申し上げます。

最後に本文中にもありましたように馬術部四代部長をなさつた太秦康光先輩が四十五年度馬術功労者として表彰されたことを記して終りの文と致します。

(田崎)

部報小委員

田崎 拓 昭

鈴木 秀二郎

平林 正二

安井 克

部報第十六号

昭和四十六年六月発行

発行者 北海道大学体育会馬術部

(札幌市北十七条西六丁目)

北大体育会内)

編集者 部報小委員会

印刷所 北大生協プリント部

日本中央競場会

札幌競馬場

北14条西19丁目

TEL (721) 0461~5

大木 睿

場長 大木 睿



おふくろのあじ

ま こ と や

札幌市北14条西4丁目

TEL (711) 7494

医 薬 品 卸

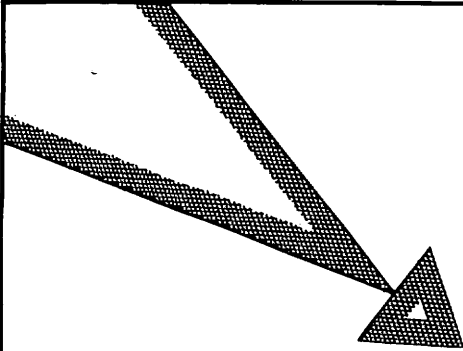


ホシ伊藤株式会社

本 社 札幌市南8条西14丁目1397番地

支 店 帯 広・釧 路・北 見・函 館・旭 川

滝 川 室 蘭・苫小牧・岩見沢



お食事の店

珉龍

札幌市北15条東1丁目大蔵会館内
TEL (731) 9033

ジンギス専門店

義 経

宴会，コンパにご利用下さい

本店 北7条西5丁目 T 711-6801
支店 北18条西5丁目 T 711-2359

亭 北 軒

モ ツ ラ

札幌市北16条西4丁目

TEL (711) 6450

乗馬用長靴
スキー・スケート・登山靴
各種靴製造と販売

札幌加盟店 **三 浦 靴 店**

札幌市南一条西八丁目八番地 T代 (231) 0901

札幌陸運局認証工場

北大モーターズ

小野 忠

世紀の名馬ノースクイン号にも
御期待下さい。

札幌市北18条西5丁目

TEL (711) 2076

滌蕩千古愁
留連百壺飲

御宴会、各種御会合に
御利用下さい

北海道料理

百壺

札幌市南七条西三丁目
TEL (521) 一四〇九番

北大前に90年
店と頭は古いけど
ビールは何時も新鮮!!

北大正門前

沢田商店

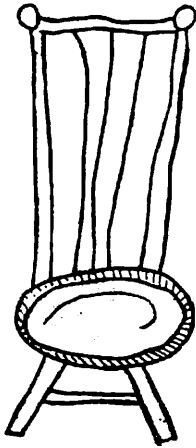
TEL (代) 741-0088

画廊喫茶
タマキ



タマキ映画同好会、毎月
名画の鑑賞をしています。
北18西4 TEL731-4890

Music & Coffee



◎モーニングコーヒー 70円
AM 8:30~AM 11:00
コーヒー券 800円 (11枚綴)

銀座

トリコロール

さっぽろ 北8西4 (北大正門前)

TEL (711) 9219

馬 具 靴
製 造 販 売 修 理

中 野 馬 具 店

札幌市北13条東1丁目 石狩通
TEL (711) - 8876

各種飼料取扱

渡 辺 商 店

TEL 711-7034

最高技術と親切をモットーとする
乗馬靴の御用命をどうぞ

堤 製 靴 店

名古屋市中区丸の内3の1
TEL (231) 2323

太 田 装 蹄 所

札 幌 市 菊 水 北 十 二

TEL (811) 0851

パ ン の 店

銀 座 屋 GIN
ZAYA

BAKERY

S a p p o r o

本社 札幌市南1条西17丁目

TEL 621-0701

工場 琴似発寒宮の内町834

TEL 611-1092

ことぶき食堂

北17西5 TEL 741-1578

千石チェーン店

千石	T	221-2011
金剛山		231-9016
ジンギスカン千石		251-4638
千石コーナー		251-5991

御宴会 御会合に御座敷も御利用下さい

札幌市北3条西3丁目日本通東向

乗馬用ズボン専門店
松田屋

田辺洋服店

札幌市豊平四条六丁目平岸通り

TEL (811) 7341

*Spaghettis and
Coffee*

*Tea Room
Utage*

N11・W4 TEL 721-6572


躍進をつづける保健食クロレラのパイオニア

クロレラが豊富な栄養源である事は、世界各国の学者がひろく認めるところです。しかし、その生産を工業化することが困難であり、各国でも実験段階でした。当社は研究を飛躍的に発展させ、ついにその工業化に成功、世界に先がけて大量生産を開始しました。高度の技術と清潔な環境のもとで収穫されるのが、〈清浄培養による保健食クロレラ〉です。

保健食の王様 印クロレラで今日も元気に…

当社商品クロレラの一粒は、
天然クロレラ約20億個のかたまりです。
宇宙時代の現代に生れた
理想的保健食として御愛用下さい。

■効果の少ない類似品あり

 印に御注意ください。

発売元 三井物産株式会社

製造元 **クロレラ工業株式会社**

取締役社長 板波俊太郎

本社 東京都港区芝浜松町4丁目23番地

電話 東京 (436) 0901-5

工場 愛知県豊田市前山町3丁目22番地

資本金 授權4億円払い込み1億5千万円

工場規模 本社43.87坪 工場6700坪



〔写真〕左から「ヤクケンクロレラ・グロスマン」、
「クロレラ給食用エキスシロップ」、「クロレラキング」

◇貸切バス・ハイヤー ◇車輛整備・中古車販売
◇石油製品販売・損害保検取扱

北都交通株式会社
北都整備株式会社
株式会社北都商会

取締役社長・武田忠幸

本 社	札幌市北30東 1	711-7214
ハイヤー	〃	711-4181 (代)
バ ス	札幌市篠路町太平	771-2821 (代)
整 備	札幌市北30東 1	721-7211 (代)
商 会	〃	721-8864 (石油・プロパン)
		711-4181 (損害保険)